

但右期月ヨリ渡航ノ者ハ明治九年十月第百廿八號第百廿九號布告ノ通可相心得事

○第三號 一月二十九日

華士族當主死亡後相續人無之親族協議ノ上家名預置追テ相續人ヲ定ムルハ當主死亡後日數五十日ヲ過クヘカラス若不得已事情有之親族連印管轄廳へ延期願出ルモノハ更ニ相當ノ猶豫ヲ與フルト雖モ死亡後六ヶ月ヲ過キ仍ホ相續人ヲ届出サルトキハ其族稱ハ廢絶候儀ト可相心得此旨布告候事

○第四號 二月五日

本年一月ヨリ日本ト香港トノ間ニ於テ外國郵便爲替并小包郵便遞送方法取開キ別紙之通驛遞局長ト香港驛遞總長ト條約相整候條此旨布告候事（別紙略ス）

○第五號 二月五日

現今流通ノ紙幣ハ紙質脆弱破烈等ノ憂不少候ニ付此度拾圓五圓壹圓三種ノ紙幣ヲ改造シ漸次交換候條此旨布告候事

但差向壹圓紙幣製造出來ニ付右見本札各管轄廳へ下ケ渡置候事

○第六號 三月二日

今般德島縣ヲ置キ阿波一國ノ管轄セシメ候條此旨布告候事

○第七號 三月十一日

舊琉球藩負債償還并貸付金敷取立方左ノ通被相定候條此旨布告候事

但舊同藩へ調達金證文所持ノ者ハ來ル五月卅日ヲ限リ本證文へ元利勘定書相添各其管轄ヲ經テ大藏省へ可申出既ニ大藏省へ申出有之分并天保度以前ノ古借ハ申出ルニ及ハス右期限ヲ失フ候分ハ一切採用不相成候事

負債償還方

第一項 弘化元甲辰年以降舊琉球藩へ借入金ハ公債ニ相立消却殘元利全額現金ヲ以テ一時償還ニ及フヘキ事

第二項 天保十四癸卯年以前ノ古借ハ公債ニ相立候事

貸付取立方

第一項 舊琉球藩ヨリ貸付有之金穀并各種ノ不納物ハ舊同藩約定ノ通可取立事

第二項 天保十四癸卯年以前ノ貸付金毀并各種ノ不納物ハ取立ニ不及候事

○第九號 三月卅一日

明治十一年月三工部省第四號布達ノ電信萬國公法ノ儀同十二年英國龍動ニ於テ右細目規則議定改正候ニ付本年四月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

但右規則ハ最寄電信分局ニ於テ承知可致事

○第拾壹號 三月三十一日

諸罰則ヲ犯シ罰金科料ニ處セラル、者處分法左ノ通相定候條此旨布告候事

一罰金科料ハ宣告ノ日ヨリ一月内ニ納完セシム若シ限内納完セサル者ハ壹圓ヲ一日ニ

折算シ禁獄ニ換フ其壹圓以下ト雖モ仍ホ一日ニ計算ス

但算メテ禁獄二年以上ニ及ホスヲ得ス

一禁獄限内罰金科料ヲ納完シ又ハ親屬等代テ納完スル時ハ經過シタル日數ヲ扣除シテ禁獄ヲ免ス

一罰金科料ヲ實決ノ刑ニ併科シタル時納完セサル者ハ刑期滿限ノ後例ニ照シテ禁獄ス

○第拾貳號 四月五日

集會條例別冊ノ通被定候條此旨布告候事

集會條例

第一條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ公衆ヲ集ムル者ハ開會三日日前ニ講談論議ノ事項講談論議スル人ノ姓名住所會同ノ場所年月日ヲ詳記シ其會主又ハ會長幹事等ヨリ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ

第二條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ結社スル者ハ結社前其社名社則會場及ヒ社員名簿ヲ管轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クヘシ其社則ヲ改正シ及ヒ社員ノ出入アリタルトキモ同様タルヘシ此届出ヲ爲スコ當リ警察署ヨリ尋問スルイアレハ社中ノ事ハ何事ヲリトモ之ニ答辨スヘシ

第三條 講談論議ノ事項講談論議スル人員會場及ヒ會日ノ定規アル者ハ其定規ヲ初會ノ三日日前ニ警察署ニ届出認可ヲ受クルトキハ爾後ノ例會ハ届出ニ及ハスト雖モ之ヲ變更スルトキハ第一條ノ手續ヲ爲スヘシ

第四條 管轄警察署ハ第一條第二條第三條ノ届出テコ於テ國安コ妨害アリト認ムルト
キハ之ヲ認可セサルヘシ

第五條 警察署ヨリハ正服ヲ着シタル警察官ヲ會場コ派遣シ其認可ノ證ヲ檢査シ會場
ヲ監視セシムルコトアルヘシ

第六條 派出ノ警察官ハ認可ノ證ヲ開示セサルトキ講談論議ノ届書コ掲ケサル事項コ
亘ルトキ又ハ人ヲ罪戾ニ教唆誘導スルノ意ヲ含ミ又ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ム
ルトキ及ヒ集會ニ臨ムヲ得サル者ニ退去ヲ命ジ之ニ從ハサルトキハ全會ヲ解散セ
シムヘシ

但本條ノ解散ヲ命ヅタル時ハ其情狀ニヨリ東京ハ警視長官其他ハ地方長官其結社
ヲ解散セシメ又ハ其管轄内ニ於テ壹箇年以内其會員ノ公衆ニ對シ政事ヲ講談論議
スルコトヲ禁スルヲ得ヘシ

〔十三年五十六號〕
ヲ以但書追加

第七條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル集會ニ陸海軍人常備豫備後備ノ名籍ニ在ル
者警察官官立公立私立學校ノ教員生徒農業工藝ノ見習生ハ之ニ臨會シ又ハ其社ニ加

入スルコトヲ得ス

第八條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ其旨趣ヲ廣告シ又ハ委員若シハ文書ヲ
發シテ公衆ヲ誘導シ又ハ他ノ社ト連結シ及ヒ通信往復スルコトヲ得ス

第九條 政治ニ關スル事項ヲ講談論議スル爲メ屋外コ於テ公衆ノ集會ヲ催スコトヲ得ス

第十條 第一條ノ認可ヲ受ケスシテ集會ヲ催スモノ會主ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金
若シハ十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其會席ヲ貸シタル者並ニ會長幹事及ヒ其講
談論議者ハ各貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處シ第三條ノ規程ヲ犯シタル者モ亦本條
ニ依ル

第十一條 第二條ノ規程ニ背キ社則或ハ社員名簿或ハ改則社員ノ出入ヲ定規ニ於テ警
察署ニ届出テス又ハ尋問スル所ノ事項ヲ開答セサルトキ社長ハ貳圓以上貳拾圓以下
ノ罰金ニ處シ偽作ノ社則又ハ名簿ヲ届出テ或ハ尋問ヲ得テ偽答スルトキ社長ハ右罰
金ノ外尙十一日以上三月以下ノ禁獄ニ處ス

第十二條 第五條ノ規程ニ背キ派出警察官ノ臨席ヲ肯セサルトキ會主會長及ヒ社長幹

事ハ各五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其警察官ヨリ演説者ノ姓名ヲ尋問スルコ之ニ答ヘス又ハ偽名ヲ答ヘタル者ハ同罪ニ處シ再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處ス

第十三條 派出ノ警察官ヨリ解散ヲ命ジタル後尙退散セサル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若シクハ十一月以上六月以下ノ禁獄ニ處ス

第十四條 第七條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金若クハ十一月以上三月以下ノ禁獄ニ處シ其他情狀ノ重キモノアレハ其社ヲ解散セシム其制限ヲ犯シテ入社シ又ハ臨會スル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 第八條ノ制限ヲ犯シタルトキ會主會長及ヒ社長幹事ハ五圓以上五拾圓以下ノ罰金若クハ一月以上一年以下ノ禁獄ニ處シ其社ヲ解散セシム此事ニ關スル者モ亦同罪ニ處シ脅迫スル者及ヒ罪再犯ニ當ル者ハ拾圓以上百圓以下ノ罰金若クハ二月以上二年以下ノ禁獄ニ處シ其社長幹事ハ一年以上五年以下結社又ハ入社ヲ禁ス

第十六條 成法ニ制定スル處ノ集會ハ此限ニ在ラス

○第拾三號 四月六日

今般第拾貳號布告ノ通集會條例制定候ニ付テハ從前集會結社候者モ右條例ニ依リ更ニ届出ヘシ此旨布告候事

○第拾五號 四月八日

明治十一年七月第拾八號布告府縣會規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一章 總則

第一條 府縣會ハ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算及ヒ其徵收方法ヲ議定ス

第二條 府縣會ハ通常會ト臨時會トノ二類ニ別ツ其定期ニ於テ開ク者ヲ通常會トナス臨時ニ開ク者ヲ臨時會トナス

第三條 通常會臨時會ヲ論セス會議ノ議案ハ總テ府知事縣令ヨリ之ヲ發ス

第四條 臨時會ハ其特ニ會議ヲ要スル事件ニ限り其他ノ事件ヲ議スルヲ得ス

第五條 府縣會ノ議決ハ府知事縣令認可ノ上之ヲ施行スヘキ者トス若シ府知事縣令其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ其事由ヲ內務卿ニ具狀シテ指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合ニ於テ府知事縣令ハ時宜ニ依リ之ヲ再議ニ付スルヲ得再議ノ後猶其議決ヲ認可スヘカラスト思慮スルトキハ内務卿ノ指揮ヲ請フコト前項ニ同シ

〔十四年第四號〕
〔以本項追加〕

第六條 府縣會ハ毎年通常會議ノ初メニ於テ地方稅ニ係ル前年度ノ出納決算ノ報告書ヲ受ケ府知事縣令ニ説明ヲ求ムルコトヲ得若シ異見アルトキハ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務大藏兩卿ニ上申スルコトヲ得

第七條 通常會期中議員ノ内二人以上ノ發議ヲ以テ其府縣内ノ利害ニ關スル事件ニ付政府ニ建議セントスル者アルハ先ツ議會ノ許可ヲ得テ之ヲ會議ニ付シ可決スルトキハ其會ノ所見トシ議長ノ名ヲ以テ直チニ内務卿ニ建議スルヲ得

第八條 府縣會ハ府知事縣令ヨリ其府縣内ニ施行スヘキ事件ニ付會議ノ意見ヲ問フコトアルトキハ之ヲ議ス

第九條 府縣會ハ議事ノ細則ヲ議定シ府知事縣令ノ認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得府縣會ハ議員ノ内招集ニ應ゼス又ハ事故ヲ告グスシテ參會セサル者ヲ審査シ其退職

者タルヲ決スルヲ得

府知事縣令ト府縣會トノ間ニ於テ法律ノ見解ヲ異ニシ又ハ權限ヲ爭フコトアルトキハ雙方ヨリ其事由ヲ具狀シ政府ノ裁定ヲ請フヘシ此場合ニ於テ府知事縣令ハ其議事若クハ會議ヲ中止スルコトヲ得

〔十四年第四號〕
〔以本項追加〕

第二章 撰舉

第十條 府縣會ノ議員ハ郡區ノ大小ニ依リ每郡區ニ五人以下ヲ撰フ

第十一條 議長副議長ハ議員中ヨリ公選シ之ヲ府知事縣令ニ報告シ府知事縣令ハ之ヲ内務卿ニ報告スヘシ

議長副議長及議員ハ俸給ナシ但會期中滞在日當及ヒ往復旅費ヲ給ス其類ハ會議ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第十二條 書記ハ議長之ヲ選ヒ庶務ヲ整理セシム其俸給ハ會費ノ中ヨリ之ヲ支給ス

第十三條 府縣ノ議員タルコトヲ得ヘキ者ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其府縣内ニ本籍ヲ定メ滿三年以上住居シ其府縣内ニ於テ地租拾圓以上ヲ納ムル者ニ限ル但左ノ

各款ニ觸ル、者ハ議員タルコトヲ得ス

第一款 風癩白痴ノ者

第二款 懲役一年以上及國事犯禁獄一年以上實決ノ刑ニ處セラレタル者
但滿期後七年ヲ經タル者ハ此限ニ在ラス

第三款 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

第四款 官吏及教導職

第五款 府縣會ニ於テ退職者トセラレタル後四年ヲ經サル者

第十四條 議員ヲ選舉スルヲ得ヘキ者ハ滿二十歲以上ノ男子ニシテ其郡區内ニ本籍ヲ定メ其府縣内ニ於テ地租五圓以上ヲ納ル者ニ限ルヘシ

但前條ノ第一款第二款第三款第五款ニ觸ル、者ハ選舉人タルコトヲ得ス

第十五條 議員ヲ選舉セントスルトキハ府知事縣令ヨリ某月間ニ選舉會ヲ開クヘキ旨ヲ布令シ郡區長ハ豫メ選舉ノ投票ヲ爲スヘキ日ヲ定メ少クモ十五日前ニ之ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第十六條 選舉ノ投票ハ豫定ノ日ニ郡區廳ニ於テ之ヲ爲シ郡區長之ヲ調査シ選舉會中ノ取締ヲ爲スヘシ但便宜ニ因リ郡區廳外ニ於テ選舉會ヲ開クコトヲ得

第十七條 選舉人ハ豫メ郡區長ヨリ付與シタル投票用紙ニ自己及ヒ被選人ノ住所姓名ヲ記シ豫定ノ日之ヲ郡區長ニ出スヘシ其投票多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トシ同數ナラハ年長ヲ取り同年ナラハ闔チ以テ之ヲ定ム

但投票ハ代人ニ托シ差出スモ妨ナシ

第十八條 投票終ルノ後郡區長ハ選舉人名簿ニ就テ投票ノ當否ヲ查シ又被選人名簿ニ就テ當選人ノ當否ヲ查ス若シ法ニ於テ不適當ナル者アルカ或ハ當選人自ラ其撰テ辭スルトキハ順次投票ノ多數ヲ得タル者ヲ取ル

第十九條 當選人ノ當否ヲ査定スルノ后郡區長ハ其當選人ヲ郡區廳ニ呼出シ當撰狀ヲ渡シ當選人ハ請書ヲ出スヘシ

但當選人各請書ヲ出シタル后郡區長ハ其姓名等ヲ郡區内ニ公告スヘシ

第二十條 一人ニモテ數郡區ノ撰ニ當ルトキハ其何レノ郡區ニ屬スヘキハ當人ノ好ニ

任スヘシ

第二十一條 議員ノ任期ハ四年トシ二年毎ニ全數ノ半ヲ改撰ス第一回二年期ノ改撰ヲ爲スハ抽籤法ヲ以テ其退任ノ人ヲ定ム

第二十二條 議長副議長ノ任期ハ二年トシ議員ノ改撰毎ニ之ヲ公撰スヘシ

第二十三條 前二條ノ場合ニ於テハ前任ノ者ヲ再撰スルコトヲ得

第二十四條 議員中第十三條ニ掲クル諸款ノ場合ニ遭遇スルカ其府縣外ニ轉住スルカ其他總テ欠員アルトキハ更ニ之ニ代ル者ヲ撰擧ス

第三章 議則

第二十五條 議員半數以上出席セサレハ當日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第二十六條 會議ハ過半數ニ依テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第二十七條 府知事縣令若クハ其代理人ハ會議ニ於テ議案ノ旨趣ヲ辨明スルヲ得但決議ノ數ニ入ルコトヲ得ス

第二十八條 會議ハ傍聽ヲ許ス但府知事縣令ノ要メニ依リ又ハ議長ノ意見ヲ以テ傍聽

ヲ禁スルヲ得

第二十九條 議員ハ會議ニ方リ充分討論ノ權ヲ有ス然レハ人身上ニ付テ褻貶毀譽ニ涉ルコトヲ得ス

第三十條 議場ヲ整理スルハ議長ノ職掌トス若シ規則ニ背キ議長之ヲ制止シテ其命ニ順ハサル者アルトキハ議長ハ之ヲ議場外ニ退去セシムルヲ得其強暴ニ涉ル者ハ警察官吏ノ處分ヲ求ムルヲ得

第四章 開閉

第三十一條 府縣會ハ毎年一度三月ニ於テ之ヲ開ク其開閉ハ府知事縣令ヨリ之ヲ命ジ會期ハ三十日以内トス但府知事縣令ハ會議ノ衆議ヲ取リテ其日限ヲ伸ルコトヲ得ルト雖モ其事由テ直ニ内務卿ニ報告スヘシ

第三十二條 通常會期ノ外會議ニ付スヘキ事務アルトキ府知事縣令ハ臨時會ヲ開クコトヲ得(但該會ヲ要スル事由テ直ニ内務卿ニ報告スヘシ)

第三十三條 會議ノ論說國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムトキ

ハ府知事縣令ハ會議ヲ中止セシメ内務卿ニ具狀シテ其指揮ヲ請フヘシ
府縣會ニ於テ右シ法律上議定スヘキ議案ヲ議定セサルコトアルトキハ府知事縣令ハ
更ニ其議定ヲ要セス内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ之ヲ施行スルコトヲ得

(十四年第四號ヲ以本項并ニ次項追加)

議員招集ニ應セサル者半數ヲ過キ議會ヲ開クヲ得サルコトアルトキハ府知事縣令ハ
其事由ヲ内務卿ニ具狀シ指揮ヲ請フヘシ

第三十四條 會議中國ノ安寧ヲ害シ或ハ法律又ハ規則ヲ犯スコトアリト認ムルトキハ
内務卿ハ何レノトキヲ問ハス閉會ヲ命シ又ハ議員ノ解散ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ前議員ノ未タ議定セサル議案アルトキハ後任議員ヲシテ之ヲ議定
セシムヘシ

〔十四年第四號ヲ以第三十四條中
數字ヲ削除シ并ニ本項ヲ加フ〕

第三十五條 内務卿ヨリ解散ヲ命シタルトキハ其解散ヲ命シタル日ヨリ九十日以内ニ
更ニ議員ヲ改撰スヘシ

第五章 常置委員

〔十三年四十九號ヲ
以本章以下追加〕

第三十六條 府縣會ハ其議員中五人以上七人以下ノ常置委員ヲ選任スヘシ

第三十七條 常置委員ハ府縣會ノ議定ニ依リ地方稅ヲ以テ支辨スヘキ事業ヲ執行ス
ルノ方法順序ニ付毎ニ府知事縣令ノ諮問ヲ受ケ其意見ヲ述ヘ及ヒ地方稅ヲ以テ支辨
スヘキ事業ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ其經費ヲ議決シ追テ府縣會ニ報告ス
ルヲ得

〔十四年第四號ヲ以
本條中數字削除〕

第三十八條 常置委員ハ通常府縣會議ノ初メ委員會議ニ於テ議決シタル事件ノ要領ヲ
執告シ且通常會ト臨時會トヲ論セス府知事縣令ヨリ覆スヘキ議案ヲ前以テ請取リ會
議ニ向テ其意見ヲ報告スヘシ

第三十九條 常置委員會議所ハ府縣廳内ニ置キ定日ニ會議スヘシ

第四十條 常置委員ノ會議ハ別ニ議案書ヲ用ユルヲ要セス

第四十一條 常置委員會議ノ議長ハ府知事縣令之ヲ勤ムヘシ但第三十八條ノ報告ヲ爲
スニ就テノ會議議長ハ時々委員中ヨリ之ヲ選舉スヘシ

第四十二條 常置委員ハ半數以上出席セサレハ當日ノ議會ヲ開クヲ得ス會議ハ過半數

ニ依テ決ス可否同敷ナルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第四十三條 常置委員會議ノ議事ハ書記ヲシテ筆記セシムヘシ

第四十四條 府知事縣令ハ主務ノ僚屬ヲ委員會議ニ出シ其會議ニ係ル事件ニ付辨明ヲ

爲サシムルヲ得

第四十五條 常置委員會議ハ傍聴ヲ許セズ

第四十六條 常置委員ノ任期ハニケ年トシ期限ニ至リ再選スルヲ得

第四十七條 常置委員會議所ノ書記ハ府縣ノ屬官中ヨリ議長之ヲ選任ス

第四十八條 常置委員ハ三拾圓以上八拾圓以下ノ月手當及ヒ往復旅費ヲ給ス其額ハ府

縣會ノ議決ヲ以テ定ム

第四十九條 常置委員ノ月手當旅費其他委員會議所ノ費用ハ地方稅ヨリ支給ス

○第拾六號 四月八日

明治十一年七月第十九號布告地方稅規則左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 地方稅ハ左ノ目ニ從ヒ徵收ス

一 地租五分一以內

一 營業稅并雜種稅

一 戶數割

第二條 營業稅雜種稅ノ種類及制限ハ別段ノ布告ヲ以テ之ヲ定ム

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目左ノ如シ
〔十四年第五號ヲ以テ以下
項目ヲ改ム但舊文ヲ略ス〕

一 警察費

一 土木費

一 府縣會議諸費

一 衛生及病院費

一 教育費

一 郡區廳舍建築修繕費

一 郡區吏員給料旅費及廳中諸費

一 救育費

一 浦役場及難破船諸費

一 管内限リ諸通書及揭示諸費

府縣ニ屬スル河港道路堤防橋梁建築修繕
等ノ費用及區町村ニ屬スル全上ノ補助費

府縣ニ屬スル教育ノ費用
及區町村立學校ノ補助費

一 勸業費

- 一 戶長以下給料及戶長職務取扱諸費
- 一 地方稅取扱費

以上費目互ニ流用スルヲ許サス
 豫算外ニ生ヅル事件
 一 豫備費

各町村限及區限ノ入費ハ其區内町村内人民ノ協議ニ任セ地方稅ヲ以テ支辨スルノ限
 ニアラス

第四條 其年七月ヨリ翌年六月迄ヲ一周年度トナシ府知事縣令ハ其年二月迄ニ地方稅
 ナ以テ支辨スヘキ經費ノ豫算並地方稅徵收ノ豫算ヲ立テ翌年度ノ定額トナシ其府縣
 會ノ議決ヲ取り其年五月ヲ以テ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第五條 非常ノ費用ハ豫算ニ立ツルヲ得サル天災時變ノ費別ニ賦課スルヲ得ルト雖モ
 其府縣會ノ議決ヲ取り内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ其急施ヲ要スル事項ハ府縣會ニ
 付セヌ便宜施行シテ後報告スルヲ得此場合ニ於テハ之ヲ其後開ク所ノ府縣會ニ報告

スヘシ
 〔十四年第五號ヲ以本條末文刪除〕

第六條 地方稅徵收ノ期限ハ府知事縣令適宜ニ之ヲ定ムヘシ

第七條

府知事縣令ハ毎年七月ニ至リ其一周年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製
 シテ内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ且翌年通常會議ノ初メニ於テ之ヲ府縣會ニ報告ス

〔十四年第五號ヲ以本條ヲ
 改正シ第八條ヲ刪除ス〕

府知事縣令ハ一週年度間ノ出納ヲ計査シ精算帳及計表ヲ製シ翌年通常會議ノ初メニ
 於テ之ヲ府縣會ニ報告シ然ル後内務卿及大藏卿ニ報告スヘシ

第八條

府縣會若シ豫算ノ議案ヲ議定セサルカ又ハ議案ヲ議定スルニ及ハスシテ内務
 卿ニ閉會若シハ解散ヲ命シタル時ハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務卿ハ前年度ノ豫
 算額ニ據テ徵收セシムルヲ得

第九條

島嶼ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀
 シ其裁定ヲ得テ本屬府縣ノ經費ト之ヲ分別スルヲ得

第十條

區ノ地方稅ニ係ル經費ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀

其裁定ヲ得テ郡ノ經費ト之ヲ分別スルコトヲ得
〔十三年貳拾六號〕
〔以本條追加〕

○第拾七號 四月八日

明治十一年月十二 第三十九號布告地方稅中營業稅雜種稅ノ種類及ヒ制限左ノ通改正候條
此旨布告候事

第一條 營業稅目左ノ如シ其制限金拾五圓以內トス但國稅アルモノヲ除ク
會社 卸賣商 仲買商 小賣商 雜商

第二條 雜種稅ハ其種類ニ依リ各個ニ稅額ヲ定ム其目左ノ如シ

製造所職工。壹ケ年金拾五圓以內
〔十四年第九號ヲ以〕
〔職工ノ二字追加〕

船。明治七年第二十一號 馬車 人力車 荷積馬車 荷積大七
布告船漁船云々ノ分 車 大八車 荷積中小車 荷積牛車ノ類 國稅ノ半額以內

市場演劇其他興行并遊覽所 上ノ高百分五以內

遊技場 玉突 大弓揚弓 壹ケ年金貳拾圓以內
射的 吹矢ノ類

料理屋 西洋料 待合茶屋 遊船宿 芝居茶屋 人寄席 壹ケ年金拾貳圓以內
遊屋 兩換屋 爲替 陸運又ハ廻漕ヲ以テ業トスル者 壹ケ年金拾五圓以內

古着古金古道具類 書畫骨 旅籠屋 諸飲食店 變屋 餅屋
賣店共 鬻麥屋ノ類 壹ケ年金拾圓以內

湯屋 理髮床 雇人請宿 壹ケ年金五圓以內

遊藝師匠 遊藝稼人 相撲 壹ケ年金拾貳圓以內

俳優 壹ケ年金六拾圓以內

新聞 藝妓 壹ケ年金四拾貳圓以內

水車 壹ケ年金五圓以內

乘馬 自用渡 壹ケ年壹頭ニ付金壹圓以內
世共 壹頭ニ付金五拾錢以內

屠畜 壹頭ニ付金五拾錢以內

第三條 漁業稅採藻稅ハ各地從來ノ價例ニ依リ之ヲ徵收スヘシ若シ其例規ヲ改正シ又
ハ新法ヲ創設セントスルモノハ府縣會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ內務大臣兩卿ニ
具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

第四條 府知事縣令ハ府縣會ノ決議ヲ以テ第一條第二條類目中ニ於テ賦課スル者ヲ取

拾スルコトヲ得

第五條 府知事縣令ハ其賦課スヘキ各業ノ盛衰ヲ觀察シ府縣會ノ決議ヲ以テ稅額制限
内ニ於テ各個ノ稅額ヲ査定スヘシ

第六條 凡ソ稅額ハ壹ケ年ヲ以テ其制限ヲ定ムト雖モ各地ノ便宜ニ依リ年額ニ準據シ
日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第七條 凡ソ上リ高ヲ以テ稅額ヲ定ムルモノハ各地ノ便宜ニ依リ上リ高見積リヲ以
テ日稅月稅トシテ之ヲ徵收スルコトヲ得

第八條 第四條第五條ニ於テ確定シタル課目課額ハ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ報
告スヘシ

第九條 第一條第二條第三條稅目ノ外地方特別ノ課稅ヲ要スルモノハ府縣會ノ決議ヲ
經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ受クヘシ

○第拾八號 四月八日

區町村會法左ノ通相定候條此旨布告候事

第一條 區町村會ハ其區町村ノ公共ニ關スル事件及ヒ其經費ノ支出徵收方法ヲ議定ス

第二條 區町村會ノ規則ハ其區町村ノ便宜ニ從ヒ之ヲ取設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受ク
ヘシ

第三條 數區町村聯合會ヲ開クキハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定
ヲ受ク可シ

第四條 區會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ町村會ノ評決ハ戶長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不
適當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令(戶長ハ郡區長ヲ經テ)ノ指揮ヲ乞フ
コトヲ得

第五條 數區聯合會ノ評決ハ區長之ヲ施行シ數町村聯合會ノ評決ハ地方ノ便宜ニヨリ
戶長又ハ郡區長之ヲ施行ス若シ其評決ヲ不適當ナリトスルトキハ總テ前條ノ手續ニ
從フヘシ

第六條 郡區長ニ於テ町村會若シ法ニ背クコトアリトスルキハ之ヲ中止シ其評決ヲ不適
當ナリトスルキハ其施行ヲ止メテ府知事縣令ノ指揮ヲ乞フコトヲ得

明治十三年

〇二百四十八

第七條 府知事縣令ニ於テ區町村會及ヒ聯合會若シ法ニ背シテアリトスルハ之ヲ中止スルヲ得又ハ之ヲ解散シテ改撰セシムルヲ得

第八條 水利土功ニ公共ノ水利土功ニシテ全町村ノ利害ニ關涉セス或ハ數町村ノ幾分ノ水利土功ニ其利害ニ關係スルモノ又ハ利害ニ關係ナキモ從來組合等ノ慣行アリ

其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

水利土功ノ爲メ其關係アル人民ノ集會ヲ要スルトキハ其地方ノ便宜ニ從ヒ規則ヲ設ケ府知事縣令ノ裁定ヲ受クヘシ

第九條 前條ニ掲ケタル集會評決ノ施行及ヒ其取締ハ第四條ヨリ第七條マテノ手續ニ從フヘシ

第十條 第三條及ヒ第八條ニ掲ケタル集會ヲ要スルハ其關係アル區町村若シハ人民中異議アリテ其集會ニ應セサルハ府知事縣令之ヲ府縣會ニ付シ其決スル所ニ依リテ決定ムヘシ

但府縣會ノ開會ニ當リ其開會ヲ待ツヘカヲサルハ府知事縣令之ヲ決定スルヲ得

得此場合ニ於テハ次ノ開會ニ於テ之ヲ報告スヘシ

○第拾九號 四月十五日

明治九年八月 第五號布告米商會所條例中左ノ通改正加除候條此旨布告候事

米商會所條例第三條第二節

發起人ハ其募ニ應シタル株主等ト共ニ集會ヲ爲シ第五條ノ程限ニ從ヒ五人以上ノ肝煎及ヒ正副頭取ヲ撰任シ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヲ得ヘシ

同第五條第三節

右役員ハ株主ノ定例總集會ノ節投票ヲ以テ十株以上ヲ所持シタル株主中ヨリ肝煎ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ正副頭取ヲ推撰シ共ニ其住所姓名年齢等ヲ詳記シタル書面ヲ以テ地方廳ヲ經由シ大藏卿ノ認許ヲ受ケテ新舊交代セシムヘシ大藏卿ハ時トシテ其改撰ヲ命スルヲ得ヘシ

同第七條第二節

明治十三年

〇二百四十九

株主ハ肝煎ノ承諾ヲ得テ仲買人ト爲ルヲ得其場合ニ於テハ別段證人ヲ要セスト雖モ通常仲買人タルノ條件ニ適應スルヲ要ス

同第八條第一節

仲買人タルヲ得ヘキ者ハ丁年ニシテ會所所在ノ地ニ於テ滿一年以上米商營業ヲ爲シタル者ニ限ル而テ仲買人トナラント欲スル者ハ身元金千圓以上ヲ出シ株主二名以上ノ保證ヲ以テ肝煎ニ申出テ其承認ヲ得タル上地方廳ヲ經由シテ仲買人トナラントスル願書ヲ大藏卿ニ捧ケテ其認許ヲ受クヘシ
身元金ハ現金又ハ日本政府ノ公債證書ヲ以テ會所ニ預ケ置クヘシ

同 第二節

仲買人ハ他人ノ依頼ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノタメニ爲ストヲ問ハス會所ニ對シテハ其賣買取引上ノ責任ヲ負フヘキモノトス

同 第三節

仲買人ハ五名ヲ一組トシ組合中ヨリ一名ヲ推擧シ肝煎ノ承認ヲ得テ組頭トナシ組合中

一切ノ取締ヲ爲サシムヘシ

同第十條第一節

會所ニ於テ爲ス所ノ賣買取引ハ現米直取引ト定期トノ二様ニ分テ又其定期ヲ二種ト爲シ其一ヲ約定ノ期限ニ至リ現米金ノ受渡ヲ爲スモノトシ其二ヲ豫定ノ期限内ニ其取引ヲ完結シ又ハ解約スルモノトス

同 第二節

現米直取引ハ見本米ヲ以テ會所内ニ於テ賣買ヲ爲シ其現石受渡ノ順序ハ會所ノ規則ニ從フヘシ

同 第三節

定期賣買ヲ約定シタル時ハ會所ノ役員ニ届出テ賣買主雙方ヨリ約定ノ證據金ヲ會所ニ差入ルヘシ此證據金ハ少クモ約定代金高十分ノ二ヨリ下ルヘカラス又此證據金ノ外ニ時々相場ノ高低ニ因テハ追證據金或ハ期日前ニ至リ猶ホ其約定ヲ確固ナラシムル爲メ増證據金ヲ差入シムヘシ

同 第四節

定期賣買約定ノ期限ハ三ヶ月ヨリ永カルヘカラス而シテ其期日ニ至レハ會所ノ役員立會ノ上必ス現米金ノ受渡シヲ爲シ其取引ヲ完結スヘシ但約定濟ノ分ヲ雙方ノ都合ニヨリ其期限内ニ買戻シ又ハ買受ケタル分ヲ他人ヘ賣渡スヲ得

同第十一條第一節

會所ニ於テ賣買雙方ヨリ領收スヘキ手数料直取引ハ賣買金高ノ二千分ノ一ヨリ多カラス又定期取引ハ千分ノ二ヨリ多カラサルヘシ

同第十六條第一節

頭取ハ肝煎株主及ヒ役員ノ進退仲買人ノ退社又ハ賣買ノ實況等ヲ詳記シ之ヲ大藏卿ニ申告スヘシ

同第十九條第一節

會所ノ役員及ヒ株主仲買人等此條例ヲ犯スカ又ハ役員タル者株主仲買人ノ條例ニ背犯シタルヲ不問ニ措キ又ハ背犯セシメタル實證アルキハ役員并ニ本人トモ其輕重ニヨリ

三拾圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

同 第二節

前節ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ニハ其告發ニ依テ科シタル罰金ノ半額ヲ給ス

同 第三節

從前ノ第二節

同 第四節

從前ノ第三節

○第貳拾號 四月十五日

明治十一年五月第八號布告株式取引所條例中左ノ通改正加除シ又明治十二年二月第八號布告但書ヲ廢ス余銀賣買取引ノ證據金モ株式取引所條例ニ遵フヘシ此旨布告候事

株式取引所條例第三章第十五條

丁年ロシテ仲買人トナラント欲スル者ハ次條ニ定ムル身元金ヲ差入レ取引所ノ承認ヲ得タル上仲買人トナラントスル願書ヲ大藏卿ニ捧ケ其認許ヲ受クヘシ

仲買人ハ他人ノ委託ヲ受ケテ賣買取引ヲ爲スト自己ノ名メニ爲ストト問ハテ取引所ニ對シテハ其賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

全 第十六條

株式仲買人ノ身元金ハ貳百圓以上金銀仲買人ノ身元金ハ千圓以上ナルヘシ

全 第四章第十九條

取引所ノ肝煎ハ五名以上トシ株主ノ總會ニ於テ取引所ノ定規ニ從ヒ現ニ三十株以上ヲ所持スル株主中ヨリ之ヲ撰舉シ肝煎ハ其同僚中ヨリ頭取壹人ヲ推舉シ其住所姓名年齢等ヲ大藏卿ニ具申シテ其認許ヲ受クヘシ大藏卿ハ時トシテハ其改撰ヲ命スルコトアルヘシ

支配人以下ノ役員ハ頭取肝煎ノ衆議ニ依リ株主又ハ株主ニアヲサル者ヲ撰任スルコトヲ得

全 第五章第三十三條

取引所ニ於テ違約人ヲ處分スルハ其證據金及ヒ身元金ヲ以テ其違約ニ依リ相手方ニ於

テ失ヒタル利得ト蒙リタル損害トヲ償ハシメテ其違約人ヲ除名スルコト止マレ

○第貳拾壹號 四月十五日

法律定規ニ違ヒ官許ヲ得タル米商會所株式及ヒ橫濱取引所外若シハ内タリニ竊ニ米穀并金銀貨幣及株式ノ限月若シハ現場定期ヨリ起リテ賣買其他之ニ類似シタル取引ヲ爲

シタル者及情ヲ知テ賣買取引ノ場所ヲ給與シタル者若シハ其賣買取引ヲ誘助シタル者ハ拾圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處シ其賣買取引ハ無効ト爲スヘシ

但本條ヲ犯シタル者ヲ告發シタル者ハ其告發ニ因テ科シタル罰金ノ全部ヲ給ス其自ラ犯シタル者事未ダ發覺セサル前ニ於テ自首シタル者ハ其罪ヲ問ハズ

右布告候事

○第貳拾貳號 五月五日

明治十一年七月第拾七號布告郡區編制法ニ依リ従前ノ一部ヲ分割シ或ハ新ニ郡名ヲ設ケ又ハ區ヲ設置スルモノ別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

府	縣	國	郡	區	(印朱書)
東京	武藏	豐島	內	豐島區 神田區 日本橋區 京橋區 芝區 麻布區 赤坂區 四谷區 牛込區 小石川區 本郷區 下谷區 淺草區 本所區 深川區	
京都	山城	丹波	桑田	上京區 下京區 北桑田郡 南桑田郡	伏見區
大阪	攝津	久良岐	西成	東區 南區 北區 西區	
神奈川	武藏	多摩	西多摩郡 北多摩郡	南多摩郡	
兵庫	攝津	八部	神戶區		
長崎	肥前	彼杵	西彼杵郡 東彼杵郡	高來郡 北高來郡 松浦郡	東松浦郡 南松浦郡 北松浦郡
		新瀧	新瀧區		

新瀧	越後	蒲原	北蒲原郡 中蒲原郡 西蒲原郡	魚沼 北魚沼郡 中魚沼郡	頸城 東頸城郡 中頸城郡 西頸城郡
埼玉	武藏	埼玉	南埼玉郡 北埼玉郡	北葛飾郡 北足立郡	
群馬	上野	群馬	東群馬郡 西群馬郡	勢多 南勢多郡 北勢多郡	甘樂 南甘樂郡 北甘樂郡
千葉	下総	東葛飾	東葛飾郡		
茨城	常陸	東茨城	東茨城郡		
	下総	北相馬	北相馬郡		
椽木	下野	上都賀	上都賀郡		
	下野	下都賀	下都賀郡		
堺	和泉	大島	堺區		
愛知	尾張	愛知	名古屋區		
	尾張	春日井	東春日井郡 西春日井郡		
	三河	加茂	東加茂郡 西加茂郡	設樂 北設樂郡 南設樂郡	

明治十三年

一〇二五五十三

山梨	甲斐	(山梨)	〔東山梨郡(八)〕 〔西山梨郡(代)〕 〔東八代郡(巨)〕 〔西八代郡(摩)〕 〔北巨摩郡(都)〕 〔中巨摩郡(留)〕 〔南巨摩郡(都)〕 〔北都留郡〕
滋賀	近江	(淺井)	〔東淺井郡〕 〔西淺井郡〕
長野	信濃	(佐久)	〔南佐久郡(伊)〕 〔北佐久郡(那)〕 〔上伊那郡(筑)〕 〔下伊那郡(摩)〕 〔西筑摩郡(安)〕 〔東筑摩郡(曇)〕 〔南安曇郡(水)〕 〔上水内郡(高井)〕 〔下水内郡(高井)〕 〔上高井郡〕 〔下高井郡〕
宮城	陸前	(宮城内)	仙臺區
福島	岩代	(會津)	〔南會津郡〕 〔北會津郡〕
	磐城	(白川)	〔西白河郡〕 〔東白河郡〕 東蒲原郡
山形	羽前	(田川)	〔東田川郡(村)〕 〔西田川郡(山)〕 〔南村山郡(東村山郡)〕 〔西村山郡(北村山郡)〕 〔賜(置)〕 〔西置賜郡〕 〔南置賜郡〕 東置賜郡
秋田	羽後	(秋田)	〔南秋田郡〕 〔北秋田郡〕 〔南岩手郡(和賀)〕 〔北岩手郡(和賀)〕 〔西閉伊郡(磐井)〕 〔東閉伊郡(磐井)〕 〔西磐井郡(九)〕 〔東磐井郡(九)〕 〔南閉伊郡(閉伊)〕 〔西閉伊郡(閉伊)〕 〔南閉伊郡(閉伊)〕 〔北閉伊郡(閉伊)〕
巖手	陸中	(岩手)	〔南岩手郡(和賀)〕 〔北岩手郡(和賀)〕 〔西閉伊郡(閉伊)〕 〔東閉伊郡(閉伊)〕 〔南閉伊郡(閉伊)〕 〔北閉伊郡(閉伊)〕

青森	陸奥	(北)	〔上北郡(津輕)〕 〔下北郡(津輕)〕 東津輕郡 南津輕郡 西津輕郡 北津輕郡 中津輕郡	
石川	加賀	(河北内)	金澤區	
岡	山	備前	(御野内)	岡山區
廣島	安藝	(安藝内)	沼田區 廣島區	
山口	長門	(豐浦内)	赤間關區	
愛媛	伊豫	(浮穴)	〔上浮穴郡(宇和)〕 〔下浮穴郡(宇和)〕 東宇和郡 南宇和郡 西宇和郡 北宇和郡	
	讚岐		小豆郡	
和歌山	紀伊	(名草内)	和歌山區	
福岡	筑前	(早良内)	福岡區	
大分	豊後	(國東)	〔西國東郡(海部)〕 〔東國東郡(海部)〕 〔北海部郡〕 〔南海部郡〕	
熊本	肥後	(飽田内)	熊本區	

明治十三年

○第貳拾三號 五月十五日

石炭酸其他劇藥ハ本年^一月^一第壹號布告藥品取扱規則第四條ニ照シ可取扱ノ處傳染病流行ノ際ハ内務省布達ニ從ヒ消毒藥ニ調製候分ニ限リ藥舖ニ於テ販賣差許候條販賣望ノ者ハ其管轄廳ニ可願出此旨布告候事

○第貳拾四號 五月十九日

明治十二年^九月^九第三十七號第三拾八號布告ヲ以テ東京大坂株式取引所并横濱取引所ニ於テ金銀貨幣取引ノ儀當分ノ内差許置候處右取引ノ内定期賣買ノ儀ハ自今差止ノ候條此旨布告候事

但是迄取結ヒタル定期賣買ハ其約定期限ニ至リ完結候儀ト心得ヘシ

○第貳拾五號 五月廿日

第一條 明治七年第五拾三號ヲ以テ地租改正後五ヶ年間ハ當初定メタル地價ニ據リ收稅致スヘキ旨布告及ヒ置シ處仍ホ明治十八年迄据置收稅致スヘシ但府知事縣令ニ於テ當初定メタル地價不適當ナリト思量シ其事由ヲ具申スルハ大藏卿ハ檢査員ヲ派

遣シ實地調査ノ上^一町村又ハ^一郡區限リ特別修正ヲ聽許スルコトアルヘシ

第二條 改租以後地目變換^{田ヲ畑ニ畑ヲ田ニ}宅地ニ爲スノ類^{セル者ハ}五ヶ年滿期ニ際シ總テ現地目ニ組

換地價ヲ修正シ爾後變換スル者ハ其年々修正スヘシ

第三條 第一條第二條ニ依リ修正ヲ加フル時ハ明治六年第二百七十二號布告ノ地租改

正條例及ヒ同年七月大藏省事務總裁布達ノ地租改正施行規則ニ依ルヘシ且其費用ハ

官吏ノ旅費日給ヲ除クノ外悉皆修正ニ該ル郡區町村若クハ所有者ヨリ支出スヘキモ

トス

第四條 地價修正ノ後租額ノ増減ハ其修正聽許ノ年ヨリ改定スルモノトス

右布告候事

○第貳拾七號 五月二十七日 ^{十四年第八}號ヲ以廢止

東京府地方稅取扱方左ノ通被定候條此旨布告候事

第一條 東京府ノ營業稅雜種稅ハ府會ノ決議ヲ經テ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可

ヲ得テ其制限ヲ殊ニスルコトヲ得

第二條 東京府ハ府會ノ決議ニヨリ水道費瓦斯燈費及ヒ火災豫防費ヲ以テ地方稅費目
中ニ加フルヲ得

○第貳拾八號 六月五日

海軍非職准士官以上其本分ノ職罷ヲ以テ官廳又ハ人民ノ依頼ニ應ジ西洋形船舶ノ乘組
員トナルモノハ明治九年第八拾貳號布告ノ限ニアラス此旨布告候事

○第二拾九號 六月五日

本年七月一日ヨリ左ノ物品無稅輸出差許候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二月月前ニ布告スヘキ事

軍 書 書

寶石、石、木、土、藤、草、櫻、桐、骨、角、甲、貝、牙、皮、革、蹄、羽、毛、紙、糸、織、物、鯨、鬚、琥珀、珊瑚、眞、珠、玻、璃、金、屬、等、ヲ、以、
テ、單、ニ、製、作、シ、或、ハ、相、交、テ、製、作、シ、タル、諸、品、並、右、各、種、ト、他、ノ、物、資、ト、ニ、ヨ、リ、成、立、タル、諸、製、作、

品

○第三拾壹號 六月十五日

備荒儲蓄法別紙ノ通相定來ル三十三年度〔明治十四年〕二月一日ヨリ施行候條明治八年七月第百

二十二號達窮民一時救助規則及同十年九月第六十二號布告凶歲租稅延納規則ハ右施行ノ

期日ヨリ廢止トス此旨布告候事

備荒儲蓄法

第一條 備荒儲蓄金ハ非常ノ凶荒不慮ノ災害ニ罹リタル窮民ニ食料小屋掛料農具料種

穀料ヲ給シ又罹災ノ爲メ地租國稅ノ部ヲ納ムル能ハサル者ノ租額ヲ補助シ或ハ貸與

スルモノトス

第二條 各府縣ハ土地ヲ有スル人民ヨリ地租ノ幾分ニ當ル金額ヲ公儲セシメ以テ儲蓄金

ヲ設ク可シ各人ヨリ公儲スルノ割合ハ府縣會ノ議決ヲ以テ之ヲ定メ其總額ハ政府ヨ

リ配付スル金額ヨリ少カラサルヲ要ス

但市街ハ府縣會ノ議決ヲ以テ政府ノ許可ヲ得郡村ト其徵收法ヲ異ニスルヲ得

第三條 政府ハ毎歲百貳拾萬圓ヲ支出シテ儲蓄金ヲ補助スヘシ

第四條 政府ヨリ補助スル金額ノ内三拾萬圓ハ中央儲蓄金トシテ大藏卿之ヲ管掌シ九拾萬圓ハ各府縣ノ地租額ニ應ジ之ヲ配付スヘシ

第五條 府縣儲蓄金ヲ徵收シ管守シ支給シ及ヒ之ヲ一處ニ集儲シ穀所ニ分儲シ或ハ米穀ヲ購入スルノ方法ハ府知事縣令ヨリ之ヲ府縣會ニ付シ其議決ヲ取リ内務大藏兩卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ之ヲ施行スヘシ但シ米穀ヲ儲積スルハ儲蓄金ノ半額ヲ超ニヘカラス他ノ半額ハ公債證書ニ交換シ置クヘキ者トス

第六條 府縣會ニ於テ議決スル儲蓄金支給ノ方法ハ左ノ制限ヲ超ユヘカラス

第一 食料ヲ給スルハ罹災ノ爲メ自ラ生存スル能ハサル者ニ限ル其日數ハ卅日以内トス又同上ノ窮民ニ小屋掛料ヲ給スルハ一戸拾圓以内農具料種穀料ヲ給スルハ一戸貳拾圓以内トス

第二 地租ヲ補助及ヒ貸與スルハ罹災ノ爲メ土地家屋ヲ賣却スルコアラサレハ地租ヲ納ムル能ハサル者ニ限ル

第七條 各府縣窮民ノ救助地租ノ補助及貸與ノ金額府縣ノ儲蓄金三分貳以上ヲ供用支出スルキハ府知事縣令ノ具申ニ依リ内務大藏兩卿ノ協議ヲ以テ中央儲蓄金ヨリ補助スヘシ

第八條 従前人民公儲ノ儲蓄金アル府縣郡區町村ハ之ヲ以テ今般施行スル所ノ備荒儲蓄金ニ補充スルコトヲ得

第九條 各府縣儲蓄金ノ出納ハ大藏卿歲次或ハ臨時ニ之ヲ檢査スヘシ

第十條 府知事縣令ハ毎年七月中ニ其府縣儲蓄金ノ出納ヲ内務大藏兩卿ニ報告シ兩卿ハ每年中央又ハ府縣儲蓄金ノ出納ヲ全國ニ公布スヘシ

第十一條 此方法ハ二十ヶ年間施行スルモノトス滿期ノ後ニ至リ各府縣ニ存在スル儲蓄金ハ府縣會ノ議決ヲ以其保存方法ヲ定ムヘシ

○第三十貳號 六月二十一日

先般沖繩縣廳ヲ首里ニ被置候旨布告候處更ニ那覇ニ改定候條此旨布告候事

○第三拾四號 七月九日

明治十二年八月第三拾貳號虎列刺病豫防假規則ヲ廢シ傳染病豫防規則左ノ通相定候條此旨布告候事

傳染病豫防規則

總 則

第一條 此規則ニ稱スル傳染病トハ虎列刺、腸室扶私、赤痢、實布埜利亞、發疹室扶私、及痘瘡ノ六病ヲ云フ

但六病ノ外流行病アリテ其勢盛ナルノ兆アルキハ地方長官ハ內務省ニ具申シ豫防法ヲ施行スヘシ

第二條 醫師ノ傳染病ヲ診斷スル者ハ遅クモ二十四時間ニ之ヲ患者所在ノ町村衛生委員ニ通知スルヲ要ス衛生委員ハ速ニ之ヲ郡區長及最寄警察署ニ通知シ郡區長ハ速ニ之ヲ地方廳 東京府下ハ府廳ニ届出ヘシ
及ヒ警視本署
地方廳ハ一週間毎ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ
〔十三年五拾四號ヲ以テ地方廳以下増加〕

但土地ノ便宜ニ依リ醫師ヨリ直ニ警察署ニ届出警察署ヨリ衛生委員ニ通知スルモ妨ナシ

第三條 地方長官ハ管内ニ傳染病流行ノ兆アリト認ムルキハ其性狀ヲ記シテ速ニ之ヲ內務省ニ申報シ且ツ其管内及ヒ隣接若クハ船舶交通ノ府縣最寄兵營其地碇泊ノ軍艦等ニ報告スヘシ

但流行ノ勢盛ナルキハ毎週ニ新舊患者及ヒ治癒死亡ノ數ヲ內務省ニ申報スヘシ
〔十三年五十四號ヲ以テ但書削除〕

第四條 虎列刺發疹室扶私ノ病者アルキハ地方廳ニ於テ直ニ此規則ヲ施行シ他ノ四病ハ其流行ノ勢盛ナルニ及ビ之ヲ施行スヘシ
〔十三年五十四號ヲ以テ本條削除〕

第五條 諸官廳、兵營、軍艦、監獄、及ヒ官立ノ學校、病院、製作所等ニ於テ傳染病者アルキ其主長ハ該地方官ト協議シ此規則ニ從ヒ豫防法ヲ施行スヘシ

第六條 虎列刺、赤痢、發疹室扶私、痘瘡ノ流行ニ際シ地方長官ニ於テ豫防ノ爲メ避病院ヲ要スヘキト認ムルキハ內務卿ニ具狀シテ之ヲ設クルヲ得

但人民協議ヲ以テ避病院ヲ設クルハ地方長官ノ許可ヲ請フヘシ

第七條 醫師並ニ衛生委員ニ於テ傳染病者ノ看護行届カス若クハ病毒ノ傳播ヲ防キ難
シト認ムル者ハ避病院ニ入ラシムヘシ

第八條 掛リ官吏ハ傳染病者アル家ニハ其病名ヲ書キテ門戸ニ貼付シ要用ノ外人ト
交通ヲ絶タシムヘシ

但患者治癒死亡又ハ避病院ニ入りタル後相當ノ消毒法ヲ行ハサルノ間ハ仍ホ本條
ヲ遵守セシムヘシ

虎列刺病

第九條 虎列刺病者ノ排泄物及ヒ汚穢物ハ其運搬夫ヲ設ケ一定ノ場所ニ運輸シ燒棄若
クハ埋却セシムヘシ

第十條 虎列刺病者ノ死屍ハ其埋葬地ヲ區劃シ濫リニ雜葬セシムヘカラズ且ツ他ニ改
葬スルヲ許サズ

但火葬ハ尋常ノ燒場ニ於テシテ其遺骨ハ改葬スルモ妨ナシ

第十一條 虎列刺病者ニ用ヒタル臥具衣服器具及ヒ病室船室等ハ消毒法ヲ行フコアラ
カレハ再ヒ之ヲ用ヒ又ハ授受賣買スルヲ許サズ

第十二條 虎列刺流行ノ際ニハ井泉、河流、水道及ヒ風呂、芥溜、下水、溝渠等總テ病毒
萌生ノ因トナルヘキ場所ニ注意シ掃除清潔ノ法ヲ設クヘシ

第十三條 虎列刺流行スルキハ船舶交通ノ地方ニ於テ流行地ヨリ來ル所ノ船舶ヲ検査
シ患者若クハ死者アルキハ此規則ニ從フテ處分スヘシ

第十六條 虎列刺流行ノ勢猛劇ナルキハ地方長官ハ内務卿ニ具狀シ其許可ヲ得テ醫師
衛生官吏警察官吏郡區町村吏等ヨリ適當ノ人員ヲ撰ヒ檢疫委員トナシ豫防消毒ノ事
務ヲ擔任セシムルヲ得

第十五條 前條ノ場合ニ於テハ地方長官ハ祭禮劇場等人民ノ群集ヲ差止ルヲ得
賜室扶私病

第十六條 賜室扶私病流行ノ際ハ第九條第十一條及ヒ第十二條ヲ適用スヘシ
赤痢病

第十七條 赤痢病流行ノ際ハ第九條十一條及第十二條ヲ適用スヘシ

實布垣里亞病

第十八條 實布垣里亞病流行ノ際ハ第十一條ヲ適用シ患者ノ痰唾及ヒ之ニ汚穢スル物ハ燒棄若クハ埋却セシムヘシ

發疹室扶私病

第十九條 發疹室扶私病者アルルハ第十條第十一條ヲ適用シ其流行ノ際ニハ第十二條

第十三條第十四條及ヒ第十五條ヲ適用スヘシ

〔十三年五十四號〕
〔以本條改正〕

第二十條 發疹室扶私病者若クハ其死屍ヲ載セタル車輿等ハ毎回消毒法ヲ行フニアラサレハ他用ニ供スヘカラス

痘瘡病

第二十一條 痘瘡病流行ノ際ハ第十條第十一條第十二條及ヒ第二十條ヲ適用シ患者ニ未痘者ヲ接近セシムヘカラス

罰則

第二十二條 醫師衛生委員此規則ニ違背シタルルハ五拾圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十三條 官吏其管掌ノ事務ニ於テ此規則ニ違背シタルルハ百圓以内ノ罰金ニ處ス

第二十四條 人民此規則ニ違背シタルルハ壹圓五拾錢以内ノ科料ニ處ス

○第三拾五號 七月十六日

明治七年一月第五號布告海上衝突豫防規則別冊ノ通改正ニ來九月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

海上衝突豫防規則

總則

第一條 此規則中蒸氣船ト雖モ帆コテ走り蒸氣ヲ用ヒサレ時ハ帆前船ト看做シ蒸氣ヲ用フル時ハ帆ヲ用フルト用ヒサルトノ差別ナク總テ蒸氣船ト心得ヘシ

燈火

第二條 各船日没ヨリ日出マテノ間ハ天氣ニ拘ラズ第三條第四條第五條第六條第七條

第八條第九條第十條第十一條ニ記載スル燈火ヲ掲クヘシ決シテ他ノ燈火ヲ用フカヘ

ラス

第三條 蒸氣船ハ航海中必ズ左ノ燈火ヲ掲クヘシ

(甲) 前橋又ハ其前面ニ於テ船体上ニ二丈ヨリ低カラサル所ニ亮明ナル白燈一個ヲ掲クヘシ若シ船幅ニ丈ヲ超ル時ハ船体上其船幅ヨリ低カラサル所ニ之ヲ掲クヘシ

此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ二十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ左右舷外ニ十方位ツ、即チ船ノ正首ヨリ各舷正横後ノ二位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ五里海里ニテ算ス以下之ニ微ヘノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(乙) 右舷ニ綠燈ヲ掲クヘシ

此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正首ヨリ右舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丙) 左舷ニ紅燈ヲ掲クヘシ

此燈火ハ常ニ不同ナク亮明ノ光ヲ發シテ鐵盤ノ十方位ヲ照スヘク製造シ之ヲ船ノ正

首ヨリ左舷正横後ノ二方位マテ光線ノ及フヘキ様ニ裝置シ且晴天ノ暗夜ニ少クモ二里ノ距離ヨリ見ユヘキモノヲ用フヘシ

(丁) 右舷紅ノ燈ニハ燈火ヨリ前ニ少クモ三尺出タル屏風様ノ隔板ヲ其燈火ノ内側ニ當テ、裝置シ右舷燈ハ左舷ニ在ル船ヨリ見ヘズ左舷燈ハ右舷ニ在ル船ヨリ見ヘサル様ニナスヘシ

第四條 蒸氣船他船ヲ引テ航行スル時ハ兩舷燈ノ外ニ亮明ノ白燈二個ヲ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ、縱ニ連掲シ獨走ノ蒸氣船ト區別スヘシ此燈火ハ獨走ノ蒸氣船ニ掲クル白燈ト同製ナルヲ用ヒテ同所ニ掲クヘシ

第五條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク海底電信線ノ布置又ハ引揚ニ從事スル時及ヒ事變ノ爲ニ運用自由ヲ得サル時ハ夜間ハ直徑八寸三分ヨリ少カラサル球形ノ紅燈三個ヲ帆前船ナレハ蒸氣船ニ掲クル白燈ノ位置ニ蒸氣船ナレハ其白燈ノ代リニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ又晝間ハ直徑二尺ノ黒球三個ヲ前橋ノ前面ニ於テ其頂部ヨリ低カラサル所ニ三尺ヨリ少カラサル間ヲ隔テ縱ニ連掲スヘシ

右黒球及ヒ燈火ハ近寄ル他船ニ於テ運用自由ヲ得スシテ航路ヲ避クル能ハサル船ノ
信號ト看認ムヘシ

右ノ船全ク運行セサル時ハ舷燈ヲ掲クヘカラスト雖モ進行スレハ必ス之ヲ掲クヘシ
第六條 帆前船ハ自ラ走ルト他船ニ引カルトノ差別ナク白燈ヲ除クノ外第三條ニ記
載スル蒸氣船ノ燈火ヲ掲クヘシ決シテ白燈ヲ掲クヘカラス

第七條 小形船ニ於テ天氣ノ模様ニ依リ緑紅ノ二燈ヲ掲ケ置キ難キ時ハ緑燈ハ右舷ニ
紅燈ハ左舷ニ於テ何時ニテモ標スヘキ様甲板上ニ用意シ置キ他船ノ我船ニ近寄り來
ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ各舷燈
ヲ他船ヨリ最モ見ヘ易キ様各舷ニ標スヘシ但此時綠燈ハ左舷ヨリ見ヘス紅燈ハ右舷
ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

此綠紅ノ燈ヲ設置ヒ無ク容易ニ取扱フ爲メ綠燈ノ燈籠ハ綠色紅燈ノ燈籠ハ紅色ニテ
外面ヲ塗リ且成規ノ隔板ヲ之ニ備置クヘシ

第八條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク碇泊中ハ最モ見ヘ易クシテ船体上ヨリ二丈ヲ超

ヘサル所ニ白燈一個ヲ掲クヘシ

此燈火ハ直徑六寸六分ヨリ少カラサル球形ノ燈籠ニテ常ニ不同ナク最モ亮明ノ光ヲ
發シ少クモ周回一里ノ距離ヨリ見ユル様ニ爲スヘシ

第九條 水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事スル時ハ他船ニ用フル燈火ヲ掲ケス唯
檣頭ニ於テ周回諸方ヨリ見ユヘキ白燈一個ヲ掲ケ且十五分時ヲ超ヘサル間歌ヲ以閃
光一個又ハ數個ヲ發スヘシ

水先船其營業場ニ於テ水路嚮導ニ從事セル時ハ他船ト同様ノ燈火ヲ掲クヘシ

第十條 甲板ナキ漁船及ヒ甲板ナキ小形航行中ハ必スシモ他船ニ用フル舷燈ヲ掲クル
ニ及ハス然レモ舷燈ノ代ニ一面ハ綠色ノ硝子板一面ハ紅色ノ硝子板ヲ備ヘタル燈籠
一個ヲ手近ニ備置キ他船ノ我船ニ近寄り來ルカ又ハ我船ノ他船ニ近寄り行ク時ハ衝
突ヲ防クニ充分ナル時間ヲ見定メテ其燈籠ヲ標スヘシ但此時ニ綠光ハ左舷ヨリ見ヘ
ス紅光ハ右舷ヨリ見ヘサル様注意スヘシ

右漁船及ヒ小形碇泊シタルカ或ハ網ヲ佃シタル時ハ亮明ナル白燈一個ヲ標スヘシ且

便宜ニ從ヒ度々閃光ヲ發スルモ苦シカラズ

第十一條 他船ニ追越サレントスル船ハ他船ニ向テ船尾ヨリ白燈ヲ標シ又ハ閃光ヲ發スヘシ

霧中信號

第十二條 蒸氣船ハ汽笛ヲ普響ノ妨碍物ナキ所ニ裝置シ且霧中號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ
汽笛ハ全樣ノ號角及ヒ號鐘ヲ備フヘシ但此汽笛號角及ヒ號鐘ハ善ク其用ニ適セサルヘカラン

霧中又ハ降雪中ハ晝夜ノ差別ナク本條ニ記載セル信號ヲ左ノ如ク用フヘシ

- (甲) 蒸氣船航行中ハ汽笛ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ長聲ヲ一發スヘシ
- (乙) 帆船航行中ハ號角ヲ以テ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ右舷開ナレハ一聲ヲ發シ左舷開ナレハ二聲ヲ連發シ船ノ正横後ニ風ヲ受ケタル時ハ三聲ヲ連發スヘシ
- (丙) 帆船ト蒸氣船トノ差別ナク航行中ニ非サレハ二分時ヨリ多カラサル間歇ヲ以テ號鐘ヲ鳴スヘシ

霧中速力

第十三條 帆船ト蒸氣船トノ差別ナク霧中及ヒ降雪中ハ程好キ速力ヲ以テ走ルヘシ
航法

第十四條 二船ノ帆船互ニ近寄りテ衝突ノ懼アル時ハ一方ノ船ヨリ左ノ如ク他船ノ航路ヲ避クヘシ

- (甲) 一杯ニ開カサル船ハ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- (乙) 左舷ニ一杯ニ開キタル船ハ右舷ニ一杯ニ開キタル船ノ航路ヲ避クヘシ
- (丙) 一杯ニ開カサル二船ノ船風ヲ受ケル舷方同カラサル時ハ左舷ニ風ヲ受ケタル船ヨリ他船ノ航路ヲ避クヘシ
- (丁) 一杯ニ開カサル二船ノ船風ヲ受ケル舷方同シキ時ハ風上ノ船ヨリ風下ノ船ノ航路ヲ避クヘシ
- (戊) 船尾ヨリ風ヲ受ケタル船ハ他船ノ航路ヲ避クヘシ

第十五條 二船ノ蒸氣船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行進フテ衝突ノ懼アル時ハ兩船共

鐵路ヲ右舷ニ轉シ互ニ他船ノ左舷ノ方ヲ行過スヘシ

本條ハ兩船正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢フテ衝突ノ懼アル時ニ限り應用スヘシ
各其鐵路ヲ保テ必ス替リ行ク時ニ應用スヘカラス

本條ヲ應用スヘキ至當ノ場合ハ兩船共ニ正シク真向又ハ殆ト真向ニ行逢ヒタル時
即チ晝間ハ我船ノ橋ト他船ノ橋ト一直線又ハ殆ト一直線ニ見ユル時夜間ハ互ニ他
船ノ兩舷燈ヲ一時ニ見ル時ニ限ルヘシ

本條ハ晝間他船ノ我鐵路ヲ横切リテ我船ノ前面ニ見ユル時又ハ夜間我船ノ紅燈他
船ノ紅燈ニ對シ或ハ我船ノ綠燈他船ノ綠燈ニ對スル時又ハ我船ノ前面ニ綠燈ナシ
シテ紅燈ヲ見或ハ紅燈ナシシテ綠燈ヲ見ル時又ハ綠紅ノ兩燈ヲ我船ノ前面ヨリ他
ノ位置ニ見ル時ハ應用スヘカラス

第十六條 二般ノ蒸氣船互ニ鐵路ヲ横切リ衝突ノ懼アル時ハ我右舷ニ他船ヲ見ル船
ヨリ他船ノ鐵路ヲ避クヘシ

第十七條 帆前船ト蒸氣船ト互ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ蒸氣船ヨリ帆前船ノ鐵路ヲ

避クヘシ

第十八條 總テ蒸氣船他船ニ近寄り衝突ノ懼アル時ハ速力ヲ緩クシ又ハ時宜ニ依リ停
止シ且後退スヘシ

第十九條 蒸氣船此規則ニ遵テ鐵路ヲ取ル時ハ左ノ汽笛信號ヲ以テ他船ニ其鐵路ヲ通
知スルヲ得ヘシ

短聲一發 我船ノ鐵路ヲ右舷ニ取ル

短聲二發 我船ノ鐵路ヲ左舷ニ取ル

短聲三發 我船一杯ノ速力ニテ退却ス

此信號ヲ用フルト否ラサレトハ隨意タルヘシ但此信號ヲ用ヒタル時之ヲ用ヒタル
船ハ必ス此信號通りニ其鐵路ヲ取ラサルヘカラス

第二十條 帆前船ト蒸氣船トノ差別ナク他船ヲ追越サントスル時ハ以上ノ規則ニ拘ラ
ス總テ他船ノ鐵路ヲ避クヘシ

第二十一條 總テ蒸氣船狹隘ノ水路ヲ通航スルニ當リ無難ニ通行シ得ル時ハ其航路ノ

中流ヨリ其船ノ右舷ニ當ル方ヲ航行スヘシ

第二十二條 以上ノ規則ニ依リテ兩船ノ内一船ヨリ他船ノ航路ヲ避クル時ハ他船ヨリ於テ其鐵路ヲ保守スヘシ

第二十三條 此規則ヲ遵守スルニ就テハ航海上百般ノ危險ニ心ヲ配リ且危險切迫シテ此規則ヲ遵守スル暇ナキ特別ノ場合ニ於テハ臨機ノ處置ヲ以テ之ヲ避クルニ注意スヘシ

懈怠ノ責

第二十四條 此規則ニ於テ點燈又ハ信號又ハ見張ノ怠リ又ハ海員ノ常務又ハ臨機處置ニ於テ必要ナル用心ノ怠リヨリ生シタル事件ニ於テハ船、船主、船長、乗組人員、各其責ヲ免ル可カラサルモノトス

別則

第二十五條 此規則ハ各地官府ニ於テ特ニ制定シタル港、川其他内海ノ航行規則ノ施行ニ干渉セサルモノトス

第二十六條 此規則ハ二艘以上ノ軍艦又ハ軍艦ニ護送セラル、船ニ増掲スル列位燈火及ヒ信號燈火ニ付各國政府ニ於テ特ニ制定シタル規則ニ干渉セサルモノトス

罰則

第二十七條 凡船舶合格ノ燈籠及信號器ヲ所持セス若クハ點燈及信號ヲ怠リ又ハ燈籠ノ裝置ヲ過リタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

但甲板ナキ漁船及甲板ナキ小船ハ此限コアラズ
〔十四年三十三號〕
〔以本條追加〕

○第三拾六號 七月十七日

刑法別冊ノ通改正候條此旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事
〔別冊刊行ニ付略ス〕

○第三拾七號 七月十七日

治罪法別冊ノ通制定候條此旨布告候事

但實際施行ノ期日ハ追テ布告スヘキ事
〔別冊刊行ニ付略ス〕

○第三拾八號 七月廿日

本年八月一日ヨリ硫酸蒸餾輸出差許候條此旨布告候事

但課税ノ節ハ二月月前ニ布告スヘキ事

○第四拾號 九月廿七日

今般酒造税則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行シ従前ノ酒類税則ハ同日ヨリ廢止候條此旨布告候事

酒造税則

第一章 免許鑑札 税率

第一條 凡ソ酒類ヲ製造シテ營業セント欲スル者ハ其旨管廳ニ願出酒造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受クヘシ

第二條 酒類ヲ分テ左ノ三類トシ免許ヲ受ケタル者ハ總テ之ヲ製造スルヲ得ヘシ

- 一類 釀造酒 清酒濁酒其他釀造シタルモノヲ云フ
- 一類 蒸溜酒 燒酎其他蒸溜シタルモノヲ云フ
- 三類 再製酒 銘酒味淋白酒等釀造蒸溜ノ酒類ヲ調和シ又ハ之ヲ元トシテ製造シタルモノヲ云フ

第三條 免許ヲ受ケタル者ハ免許税及ヒ造石税ヲ納ムヘシ其額左ノ如シ

酒造免許税

酒造場一箇所ニ付 金三十圓

酒類造石税

一類壹石ニ付 金貳圓 二類壹石ニ付 金三圓

三類壹石ニ付 金四圓

第四條 免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月三十日迄ヲ以テ一期トス

第五條 免許ヲ請フ者ハ毎年九月三十日迄ニ管廳ニ願出ヘシ右期日ヲ過クシテハ免許セサル者トス

第六條 免許鑑札賣買讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札ヲ失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシキハ其旨管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第二章 納税 造石検査

明治十三年

〇二百六十六

第八條 免許税ハ鑑札申受ケタル時之ヲ納ムヘシ

第九條 造石税ハ左ノ三期ニ納ムヘシ

第一期 四月三十日限

十月一日ヨリ三月三十一日迄検査済石数ニ係ル税額ノ半数

第二期 七月三十一日限

四月一日ヨリ六月三十日迄検査済石数ニ係ル税額ノ半数

第三期 九月三十日限

七月一日ヨリ皆造検査済石数ニ係ル税額并前納額ノ残数

第十條 造酒ノ石数ハ總テ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十一條 前條ノ酒類ハ八月三十一日迄ニ皆造スヘシ

第十二條 自家用料又ハ造酒保存ノ料ニ充テ製造スル酒類ト雖モ總テ管廳ノ検査ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ

第十三條 検査未済ノ酒類ヘ検査済ノ酒類又ハ古酒買入酒等ヲ混和スル者モ其造石税

ハ総石数ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第十四條 検査未済ノ酒類ヲ届出ノ上他ノ酒類ニ變製第一章第二條中一類ノ酒ヲ二スル時ハ造石税ハ其變製ノタル酒類ニ就キ之ヲ納ムヘシ

第十五條 検査済ノ酒類ヲ他ノ酒類ニ變製スル時ハ既ニ検査済ノ石数ニ係ル造石税ヲ納メ更ニ變製ノ石数ニ就テ造石税ヲ納ムヘシ

但變製ノ節ハ必ス管廳ヘ届出テ検査ヲ受クヘシ且製成ノ上ハ第十條ノ手續ニ據リ検査ヲ受クヘシ

第十六條 皆造期限前ニ於テ非常ノ損害ニ罹リタル酒類ハ直ニ管廳ヘ申出検査ヲ受クヘシ

第十七條 前條検査ノ上再ヒ酒類ニ製成スル者ハ其石数ニ應シ造石税ヲ納ムヘシ其製成スルヲ得サル者及ヒ廢棄シタル者ハ其石数ニ係ル造石税ヲ免除ス

第十八條 葡萄酒及ヒ麥酒ノ類ヲ製造スル者ハ免許税ヲ納ムヘシト雖モ造石税ハ之ヲ免除ス

第十九條 酒造中ハ管廳主任官員時々巡回スヘキニ付何酒類ヲ問ハス其仕込タル酒も
ト其他仕込米及ヒ營業ニ關スル諸帳簿等ノ検査ヲ受クヘシ

第二十條 酒桶瓶類ハ新製修繕ヲ問ハス使用以前管廳へ申出其容量ノ検査ヲ受クヘシ
但賣買等ハ其時々管廳へ届出ヘシ

第三章 禁令 雜令

第二十一條 酢及ヒ酒もトテ販賣スルヲ許サス

第二十二條 都テ他ノ依托ヲ受ケ酒類ヲ代造スルヲ許サス

第二十三條 検査未済ノ酒類ヲ販賣シ又ハ自家ノ所用ニ消費スルヲ許サス

第二十四條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サス

第二十五條 造酒^槽蒸溜^器器械ニハ管廳主任官員ノ封緘ヲ受ケ置キ使用スルキハ其旨申出
開封ヲ請フヘシ

但過誤等ニテ封緘ヲ毀損シタルトキハ直ニ管廳へ届出再封ヲ請フヘシ

第二十六條 免許ヲ受ケタル者ハ其節管廳へ該一期造酒見込ノ種目石數并ニ其造^り方法

共届出ヘシ(但種目變換并見込石數ノ増減等ハ其時々届出ヘシ)

第二十七條 酒造ニ屬スル倉庫納屋并ニ諸器械共豫テ管廳へ届出ヘシ

但増減ハ其時々届出ヘシ

第二十八條 一期造酒届出ノ石數何酒何石造ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ書載
シ之ヲ戶外ニ掲出スヘシ

第四章 罰令

第二十九條 免許鑑札ヲ受ケヌ^ルヲ製造^シタル者ハ其酒類及ヒ製酒諸器械トモ沒收シ
免許税額ニ倍ノ金額ヲ科シ之ヲ賣却キタル者ハ其石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額
ヲ併セ科スヘシ

但シ本文酒類并ニ諸器械ヲ己ニ賣却キタルモノハ其代價ヲ追徴スヘシ

第三十條 免許鑑札ヲ借受ケ製造スル者ハ第二十九條ニ據テ處分^シ之ヲ貸與ヘタル者
ハ其鑑札取揚ケ免許税相當ノ金額ヲ科スヘシ

第三十一條 造酒石數ノ検査ヲ受ケヌシテ賣却キタル時ハ其代價ヲ追徴シ其酒類ノ石

數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

第三十二條 検査ノ際酒類ヲ隠蔽シタル者ハ其酒類ヲ沒收シ其酒類ノ石數ニ相當スル造石税三倍ノ金額ヲ科スヘシ

但未製成ノ酒類もどろト雖モ隠蔽シタル者ハ本條ニ據テ處分ス

第三十三條 検査未済ノ酒類ヲ自用ニ消費シタル者ハ其石數ニ係ル造石税ニ相當スル金額ノ三倍ヲ科スヘシ

第三十四條 前條々ニ明記スルモノ、外第三章中ノ正條ニ違反スル者ハ壹圓ヨリ少ナカラス三拾圓ヨリ多カラサル罰金ヲ科スヘシ

附則 酒造營業者ニアラスメテ自家飲料ノクメ酒類ヲ製造スルモノハ一ケ年壹石各製造スルトキハニ超ユヘカラス若シ壹石ヲ超ルトキハ總テ本則ニ從フヘシ

其石數ヲ合算ス

○第四拾壹號 九月廿七日

酒造營業規則別冊ノ通相定本年十月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

酒造營業規則

第一章 免許鑑札 營業税

第一條 凡ソ酒類醸造酒類ノ製造ヲ營業セシト欲スル者ハ其旨管廳ニ願出製造場一箇所毎ニ免許鑑札ヲ受ケ一期營業税トシテ左之通納ヘシ

酒造營業税 金五拾圓

第二條 營業免許ハ其年十月一日ヨリ翌年九月卅日迄ヲ以一期トス

第三條 一期中何月ニ新規免許ヲ受ケルモ營業税ハ直ニ管廳ニ納ムヘシ

第四條 免許ヲ受ケタル者ハ其一期中販賣見込ノ石數毎年十月中管廳ニ届出ヘシ

第五條 販賣ノ節ハ其石數并ニ購求者居所姓名及ヒ年月日等遺漏ナシ帳簿ニ記載シ置キ翌年十月中管廳ニ差出シ検査ヲ受クヘシ

第六條 免許鑑札買賣讓與スル時ハ雙方連印ノ願書ヲ管廳ニ差出シ書換ヲ請フヘシ

第七條 免許鑑札失却毀損スルカ或ハ代替改名轉居セシ時ハ管廳ニ願出再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 免許ヲ免ケタル者ハ酒造賣捌所ト書シタル標札ニ免許鑑札ノ番號ヲ記載シ戶

外ニ掲出スヘシ

第二章 禁令 罰令

第九條 免許鑑札ハ貸借スルヲ許サズ

第十條 免許鑑札ヲ受ケス齎麴ヲ營業スル者ハ科料トシテ其營業稅二倍ノ金額ヲ徵ス
ヘシ

第十一條 前明條ノ外販賣ノ節石數并ニ購求人ノ居所姓名等ノ帳記ヲ忘ルカ其他本則

ニ違犯スル者ハ科料トシテ壹圓ヨリ少ナカラス五拾圓ヨリ多クナル金額ヲ徵スヘシ

○第四拾貳號 九月廿八日

今般第四拾號布告酒造稅則第一章第五條營業出願期限ノ儀ハ本年ニ限り來ル十一月三十日迄延期候條此旨布告候事

○第四拾三號 十月五日

地所名稱區別中民有地第二種ニ左ノ通追加候條此旨布告候事

一 公衆ノ用ニ供スル道路

但其地形ヲ變換スルトキハ管轄廳ノ許可ヲ請フヘシ

○第四拾四號 十月八日

內務省所轄小笠原島ヲ東京府管轄ニ被屬候條此旨布告候事

○第四拾五號 十月十二日

明治九年七月第九十八號布告左ノ通改正候條此旨布告候事

已ニ許可ヲ得タル新聞紙雜誌雜報國安ヲ妨害シ又ハ風俗ヲ壞亂スル者ト認メタルハ內務卿ニ於テ其發行ヲ禁止シ又ハ停止スヘシ

○第四拾七號 十月廿七日

明治六年三月第二百二十一號布告金札引換公債証書發行條例并改正追加之分共更ニ別冊ノ通改定候條此旨布告候事
改定金札引換公債條例

第一章 總則

明治十三年

〇二百七十

第一條 金札引換公債証書ハ政府發行ノ紙幣ヲ交換支消スル爲メ發行シ其元利金共ニ金銀貨幣ヲ以テ仕拂フモノトス

第二條 金札引換公債証書ハ記名利札付コシテ五百圓百圓五拾圓ノ三種トス

第三條 何人ニテモ外國人前條ニ記載スル各種証書面ノ金高ノ紙幣ヲ差出シ金札引換公債証書ニ交換スル事ヲ得ヘシ

第四條 金札引換公債証書ヲ以テ交換シタル紙幣ハ大藏省ニ於テ成規ニ遵ヒ之ヲ截斷スヘシ

第二章 元利金ノ仕拂

第五條 金札引換公債ノ元金ハ其証書交附ノ年ヨリ三ヶ年據置四ヶ年目ヨリ向十二ヶ年間政府ノ都合ヨリ抽籤ノ法ヲ以テ消却シ利息ハ一ヶ年六分ノ百分
至ル迄毎年五月十一月ノ兩度ニ拂渡スヘシ(但抽籤法ヲ以テ元金ヲ拂戻スニ當リテハ年六分ノ利息月割抽籤十五日以前ニ係レハ前月迄ノ分十六日ヲ以テ右抽籤法ヲ行後ニ係レハ半ヶ月分ヲ下渡スヘキモノトス)ヒシホマテノ分下渡スヘシ

第三章 証書ノ交付及ヒ簿記ノ手續

第六條 紙幣ヲ以テ金札引換公債証書ニ交換セント欲スル者ハ其紙幣並紙幣ノ高ヲ記載シタル交換願書ヲ其地方ノ管廳ニ差出スヘシ

第七條 地方管廳ニ於テハ紙幣ト願書トヲ受取り其受領證ヲ製シテ本人ニ渡シ其紙幣ヲ大藏省出納局若シハ其出張所ニ納付シ其預リ証ト共ニ金札引換公債証書申請書ヲ大藏省國債局ニ送付スヘシ

第八條 交換願書ヲ差出シタル者ニ地方管廳ヨリ其受領證ヲ交付スルノ各月十五日以前ナレハ其月十六日以後ナレハ其翌月ヨリ計算シテ其年利ヲ拂渡スヘシ

第九條 國債局ニ於テハ申請書ニ據リ其金高ニ相當スル公債証書ノ番號記號枚數ヲ定メ其債主ノ住所姓名ヲ簿冊ニ登記シ並ニ割印シタル上ニ於テ其証書ヲ各債主ノ地方管廳ニ送達スヘシ

第十條 地方管廳ニ於テハ其債主ノ住所姓名及ヒ証書ノ金高種類枚數番號記號ヲ公債係ノ簿冊ニ登記シ及ヒ証書裏面ノ右側ニ債主之姓名ヲ記入シ且ツ管廳ノ割印ヲ加ヘ

本人へ渡置キタル受領証ト引換ヘニ証書ヲ交付スヘシ

但証書交付ノ後他官ニ轉移シ若クハ他官ヨリ移轉シ來ルモノハ其出入増減表ヲ製シ每翌月五日迄ニ大藏省國債局ニ届出ツヘシ

第十一條 公債証書ト引換ヘタル受領証ノ裏面ニ本人ヲシテ証書ノ受取ヲ記サシメ翌月五日迄ニ之ヲ取纏メ明細表ヲ添ヘ大藏省國債局ヘ送致スヘシ

第四章 証書ノ格式及ヒ賣渡讓渡ノ手續

第十二條 此條例頒布以後ト雖モ金札引換公債証書ハ従前ノ金札引換公債証書無記名利札付ノ様式ヲ用ヒ不要矛盾ノ文字ハ朱書ヲ以テ點竄スヘシ

第十三條 金札引替公債証書ノ所有者ニ於テ初メテ之ヲ他人トシテ賣渡シ若クハ讓渡サントスル時ハ其証書ヲ其地方管廳ヘ差出シテ繼足紙ヲ請願スヘシ

管廳ニ於テハ新舊公債証書ニ用フル繼足紙ヲ該証書ノ左側ニ糊附繼印シテ請願人ニ下付シ名前書替ノ手續ヲ爲サシメタル上其捺印ヲ取計フヘシ

但利息渡方混淆セサル爲メ毎年四月一日ヨリ五月十五日マテ十月一日ヨリ十一月

十五日迄証書ノ讓渡賣買ノ届出ヲ見合スヘシ

第十四條 此條例頒布以前交付シタル金札引換公債証書ハ記名無記名ノ分共改定ノ証書ト引換エヘシ

第十五條 凡ソ此條例ニ明文ナキノ件ハ都テ明治八年五月第九十五號布告改正新舊公債証書發行條例第四條ヨリ第十二條マテ及ヒ右ニ關シ爾來改正増補ノ各條ニ準據スヘシ

○第四拾八號十一月五日

今般歲計ヲ節約シ紙幣消却ノ元資ヲ増加シ併セテ地方ノ政務ヲ改良スルノ要用ナルヲ察シ左ノ通制定布告候事

第一條 本年四月第十六號布告第一條地方稅目中「地租五分一以内」トアルヲ「地租三分一以内」ト改定ス

第二條 同上布告第三條地方稅ヲ以テ支辨スヘキ費目中左ノ三項ヲ増加ス
一府縣廳舍建築修繕費 一府縣監獄費 一府縣監獄建築修繕費

第三條 地方稅ヲ以テ支辨スヘキ 府縣土木(即チ河港、道路、堤防、橋梁建築修繕)費中
官費下渡金ハ來ル十四年度ヨリ廢止トス {十四年第十號ヲ
以本條中刪除}

○第五拾號 十一月十二日

本年 六月 第三拾壹號布告ヲ以テ定メタル備荒儲蓄金ヲ息納スル者ハ十年 十一月 第七十九號
布告ニ據リ處分スヘシ但該儲蓄金ヨリ給與補助若クハ貸與ヲ受ルモノハ免除スヘシ此
旨布告候事

○第五拾貳號 十一月三十日

土地賣買讓渡規則別紙ノ通相定候條此旨布告候事

但明治八年 六月 第六拾六號布告并同年 十月 第一百五拾三號布告廢止候事

土地賣買讓渡規則

第一條 凡ソ所有ノ土地ヲ賣渡シ又ハ讓渡サント欲スル者ハ 賣渡 讓渡 證文ニ地券ヲ添ヘ其
地ノ戶長役場ニ差出シ與書割印ヲ受ケ之ヲ買受人又ハ讓受人ヘ附與スヘシ
但一筆ノ土地ヲ分割シテ與書割印ヲ受ケント欲スル者ハ其分界及坪數等ヲ詳記シ

タル圖面ヲ添ヘテ差出スヘシ

第二條 戶長役場ニ於テハ豫メ土地賣買讓渡與書割印帳ヲ備置キ與書割印ヲ請フモノ
アソハ地所賣入書入與書割印帳ヲ見合セ登記ナキニ於テハ 賣渡 讓渡 證文ニ與書割印ヲ
スヘシ

第三條 買受人又ハ讓受人 賣渡 讓渡 證文ヲ領收スル時ハ地券 書換 願書ニ雙方連印ノ上地券
ヲ添ヘ戶長役場ヲ經テ管轄廳ヘ差出スヘシ

第四條 第一條ノ手續ヲ以テ其土地所有權ヲ移轉スルコト得ト雖モ地租并地方稅ハ地
券ニ記載セル姓名ノ者ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但地券紛失ノ際下附願出ルモ亦地券ニ記載セル姓名ノ者タルヘシ

第五條 死亡者失踪者ノ家督相續若クハ遺產相續及ヒ離縁戶主ノ家督相續ニ由リ土地
ヲ讓受ケタル者ハ親族 親族ナキモノト連印ノ上戶長役場ヲ經テ地券 書換 願書ヲ管轄
廳ヘ差出スヘシ若シ家督相續又ハ遺產相續ノヨリ六箇月以内ニ戶長役場迄之ヲ差
出サ、ル者ハ證印稅五倍ノ科料ニ處ス(但本條期限内ニ地券 書換 願書ヲ差出ス能ハ

サル事由アリテ之ヲ届出ル者ハ此限ニ在ラス

○第五十三號 十二月九日

凡ソ人民ノ上書一般ノ公益ニ關スルモノハ何等ノ名目ヲ以テスルニ拘ハラズ渾テ建白ト爲シ元老院ニ於テ取扱ヒ候條管轄廳ヲ經由シテ同院ニ差出スヘシ此旨布告候事

○第五拾五號 十二月廿一日

明治十四年郵便規則及罰則別冊ノ通ニ候條此旨布告候事

(別冊略ス)

○第五拾七號 十二月廿三日

明治十一年^五月第八號布告株式取引條例第一章第二條中其資本金額ハ貳拾萬圓ヲ拾萬圓ト改正シ及ヒ第五章第三十條ヘ左ノ通但書追加候條此旨布告候事

但本條ニ掲載セサル諸會社ノ株券ト雖モ其營業確實ナリト認ムルモノハ大藏卿ニ於テ其實買ヲ許可スルヲ得

○第五拾八號 十二月廿八日

明治九年^六月第八十二號布告西洋形船船長運轉手及機關手試驗免狀規則首項中第二節ヲ刪除シ自今登簿噸數壹百公稱馬力五拾以上ノ西洋形船船長運轉手及機關手ハ總テ該規則ニヨリ免狀ヲ授受スヘシ此旨布告候事

○第五拾九號 十二月廿八日

明治十二年^九月第四拾號布告教育令左ノ通改正候條此旨布告候事

第一條 全國ノ教育事務ハ文部卿之ヲ統攝ス故ニ學校幼稚圖書館等ハ公立私立ノ別ナシ皆文部卿ノ監督内ニアルヘシ

第二條 學校ハ小學校中學校大學校師範學校專門學校農學校商業學校職工學校其他各種ノ學校トス

第三條 小學校ハ普通ノ教育ヲ兒童ニ授クル所コソテ其學科ヲ修身讀書習字算術地理歴史等ト初步トス土地ノ情况ニ隨ヒテ野書唱歌體操等ヲ加ヘ又物理生理博物等ノ大意ヲ加フ殊ニ女子ノ爲ニハ裁縫等ノ科ヲ設クヘシ(但己ムヲ得サル場合ニ於テハ修身讀書習字算術地理歴史ノ中地理歴史ヲ減スルコトヲ得)

第四條 中學校ハ高等ナル普通學科ヲ授クル所トス

第五條 大學校ハ法學理學醫學文學等ノ專門諸科ヲ授クル所トス

第六條 師範學校ハ教員ヲ養成スル所トス

第七條 專門學校ハ專門一科ノ學術ヲ授クル所トス

農學校ハ農耕ノ學業ヲ授クル所トス

第八條 商業學校ハ商賣ノ學業ヲ授クル所トス

職工學校ハ百工ノ職藝ヲ授クル所トス

以上數條掲グル所何ノ學校ヲ論セス各人皆之ヲ設置スルコトヲ得ヘシ

第九條 各町村ハ府知事縣令ノ指示ニ從ヒ獨立或ハ聯合シテ其學齡兒童ヲ教育スルニ足ルヘキ一箇若シハ數箇ノ小學校ヲ設置スヘシ（但本文小學校ニ代ルヘキ私立小學校アリテ府知事縣令ノ認可ヲ經タルトキハ別ニ設置セサルモ妨ケナシ

第十條 各町村ハ學務ヲ幹理セシメンカ爲コ小學校ヲ設置スル獨立或ハ聯合ノ區域ニ學務委員ヲ置キ且長ヲ以テ其員ニ加フヘシ

但人員ノ多寡給料旅費職務取扱諸費等ノ有無及其額ハ區町村會之ヲ評決シ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ
〔十四年三十五號〕
ヲ以數字ヲ加フ

第十一條 學務委員ハ町村人民其定員ノ二倍若シハ三倍ヲ薦舉シ府知事縣令其中ニ就テ之ヲ撰任スヘシ

但薦舉ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十二條 學務委員ハ府知事縣令ノ監督ニ屬シ兒童ノ就學學校ノ設置保護等ノ事ヲ掌ルヘシ

第十三條 凡兒童六年ヨリ十四年ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

第十四條 學齡兒童ヲ就學セシムルハ父母後見人等ノ責任タルヘシ

第十五條 父母後見人等ハ其學齡兒童ノ小學校三箇年ノ課程ヲ卒ラサル間已ムヲ得サル事故アルニアラザレハ少クトモ毎年十六週日以上就學セシメサルヘカラス又小學校三箇年ノ課程ヲ卒リタル後ト雖モ相當ノ理由アルロアラザレハ毎年就學セシメサルヘカラス

但就學督責ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第十六條 小學校ノ學期ハ三箇年以上八箇年以下タルヘク授業日數ハ每年三十二週日以上タルヘシ

但授業時間ハ一日三時ヨリ少カラズ六時ヨリ多カラサル者トス

第十七條 學齡兒童ヲ學校ニ入レヌ又巡回授業ニ依ラスシテ別ニ普通教育ヲ授ケントスルモノハ郡區長ノ認可ヲ經ヘシ

但郡區長ハ兒童ノ學業ヲ其町村ノ小學校ニ於テ試験セシムヘシ

第十八條 小學校ヲ設置スルノ資力ニ乏シクシテ巡回授業ノ方法ヲ設ケ普通教育ヲ兒童ニ授ケントスル町村ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第十九條 學校ニ公立私立ノ別アリ地方稅若クハ町村ノ公費ヲ以テ設置セルモノヲ公立學校トシ一人若クハ數人ノ私費ヲ以テ設置セルモノヲ私立學校トス

第二十條 公立學校幼稚園圖書館等ノ設置廢止其府縣立ニ係ルモノハ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ其町村立ニ係ルモノハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十一條 私立學校幼稚園圖書館等ノ設置ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ其廢止ハ府知事縣令ニ開申スヘシ

但公立小學校ニ代用スル私立小學校ノ廢止ハ府知事縣令ノ認可ヲ經ヘシ

第二十二條 町村私立學校幼稚園圖書館等設置廢止ノ規則ハ府知事縣令之ヲ起草シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十三條 小學校ノ教則ハ文部卿頒布スル所ノ綱領ニ基キ府知事縣令土地ノ情況ヲ量リテ之ヲ編制シテ文部卿ノ認可ヲ經テ管内ニ施行スヘシ

但府知事縣令施行スル所ノ教則ニ準據シ難キ場合アリテ之ヲ斟酌増減セントシ府知事縣令之ヲ許可セントスルトキハ其意見ヲ付シテ文部卿ノ認可ヲ經ヘシ

第二十四條 公立學校ノ費用府縣會ノ議定ニ係ルモノハ地方稅ヨリ支辨シ町村人民ノ協議ニ係ルモノハ町村費ヨリ支辨スヘシ

第二十五條 町村費ヲ以テ設置保護スル學校ニ於テ補助テ地方稅ニ要スルトキハ府縣會ノ議定ヲ經テ之ヲ施行スルコトヲ得ヘシ

第二十六條 公立學校ノ敷地ハ免稅タルヘシ

第二十七條 凡學事ニ供スル寄附金等ハ其寄附人ヨリ指定セシ用途ノ外ニ支消スルコトヲ得ス

第二十八條 削除 第二十九條 削除 第三十條 削除

第三十一條 削除 第三十二條 削除

第三十三條 各府縣ハ小學校教員ヲ養成センカ爲ニ師範學校ヲ設置スヘシ

第三十四條 公立師範學校ニ於テハ本校卒業ノ生徒ニ試験ノ後卒業證書ヲ與フヘシ

第三十五條 公立師範學校ハ本校ニ入學セサルモノト雖モ卒業證書ヲ請フモノアラハ其學業ヲ試験シ合格ノモノニハ卒業證書ヲ與フヘシ

第三十六條 削除

第三十七條 教員ハ男女ノ別ナク年齢十八年以上タルヘシ

但品行不正ナルモノハ教員タルコトヲ得ス

第三十八條 小學校教員ハ官立公立師範學校ノ卒業證書ヲ有スルモノトス

但本文師範學校ノ卒業證書ヲ有セスト雖モ府知事縣令ヨリ教員免許狀ヲ得タルモノハ其府縣ニ於テ教員タルモ妨ケナシ

第三十九條 文部卿ハ時々吏員ヲ府縣ニ發遣シ學事ノ實況ヲ巡視セシムヘシ

第四十條 公私學校ニ於テハ文部卿ヨリ發遣セル吏員ノ巡視ヲ拒ムコトヲ得ス

第四十一條 府知事縣令ハ管内學事ノ實況ヲ記載シテ毎年文部卿ニ申報スヘシ

第四十二條 凡學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルコトヲ得ス

但小學校ニ於テハ男女教場ヲ同クスルモ妨ケナシ

第四十三條 凡學校ニ於テ授業料ヲ收ムルト收メサルト其便宜ニ任スヘシ

第四十四條 凡兒童ハ種痘或ハ天然痘ヲ歴タルモノニアラサレハ入學スルコトヲ得ス

第四十五條 傳染病ニ罹ルモノハ學校ニ出入スルコトヲ得ス

第四十六條 凡學校ニ於テハ生徒ニ體罰(毆打或ハ縛スルノ類)ヲ加フヘカラス

第四十七條 生徒試験ノトキハ父母或ハ後見人等其學校ニ來觀スルコトヲ得ヘシ

第四十八條 町村立學校ノ教員ハ學務委員ノ申請ニ因リ府知事縣令之ヲ任免スヘシ

第四十九條 町村立小學校教員ノ俸額旅費ハ府知事縣令之ヲ規定シテ文部卿ノ認可ヲ
經ヘシ〔十四年三十五號ヲ以
旅費ノ二字ヲ加フ〕
第五十條 各府縣ハ土地ノ情況ニ隨ヒ中學校ヲ設置シ又專門學校農學校商業學校職工
學校等ヲ設置シヘシ

明治十四年太政官御布告

○第壹號 一月十日

京都府管下伏見區相廢候條此旨布告候事

○第三號 二月七日

今般福井縣ヲ置キ越前若狹兩國一圓管轄セシメ堺縣ヲ廢シ大坂府ニ合併候條此旨布告
候事（但福井縣屬ノ位地ハ越前國足羽郡福井ニ相定候事

○第六號 二月十四日

府縣會ハ其議定スヘキ事件中細目ニ係ル事項ヲ以テ區町村會若シハ水利土功會ノ議決
ニ付スルヲ得ヘシ此旨布告候事

○第八號 二月十四日

東京府京都府大坂府神奈川縣區郡都會規則左之通相定メ明治十三年五月第二十六號及第
二十七號布告廢止候條此旨布告候事

但三府神奈川縣ノ外區制ヲ設ケタル諸縣ニ於テハ政府ノ裁可ヲ經テ此規則ヲ施行

スルコトヲ得
ナ以但書追加

第一條 三府及ヒ神奈川縣ニ於テハ府縣會ヲ分テ區部會郡部會トナシ區部郡區部ニ分別シタル事件ヲ議定セシム

第二條 區部會郡部會ニ於テ議定スヘキ事件ト府縣會ニ於テ議定スヘキ事件トハ府縣會ニ於テ之ヲ議定ス

第三條 府縣會規則第十條ノ定限外ニ於テ區部議員ノ増加ヲ要スルトキハ府知事縣令ヨリ内務卿ニ具狀シ其認可ヲ得テ其定限ヲ殊ニスルコトヲ得

第四條 府縣會ハ區部郡部議員各半數以上出席スルコアラザレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス

第五條 府縣會ノ議定ニ屬スル事件ニ付テハ區部郡部常置委員會同シテ諮問ヲ受ケ又ハ議決スヘシ

但區部郡部常置委員各半數以上出席スルコアラザレハ其日ノ會議ヲ開クヲ得ス
第六條 區部ニ係ル營業稅雜種稅ハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿

ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ其制限ヲ殊ニスルコトヲ得

第七條 區部ニ於テ地方稅費目外特別ニ要スル費項アルトキハ區部會ノ決議ヲ經テ府知事縣令ヨリ内務大藏兩卿ニ具狀シ政府ノ裁可ヲ得テ地方稅費目ニ加フルコトヲ得

第八條 明治十三年度以前ニ係ル地方稅ノ中區部連帶支辨セルモノハ其決算ヲ府縣會ニ報告シ區部ニ分別セルモノハ其決算ヲ各別ニ區部會郡部會ニ報告スヘシ

○第拾壹號 二月十六日
群馬縣縣廳位置ヲ上野國前橋ニ改定候條此旨布告候事

○第十二號 二月十七日
明治十二年五月第十九號布告西洋形商船免狀ハ自今蒸氣船ハ十噸風帆船ハ二十噸以下及ヒ港川港灣ヲ限リ運轉スル者ハ其船免狀ヲ受有スルコト及ハス此旨布告候事

○第拾三號 二月十七日
明治九年六月第八十二號布告試驗課程ニ合格セリト思惟スル外國政府ノ本免狀ヲ所有スル船長運轉手機關手ハ更ニ試驗ヲ爲サス原免狀同等ノ免狀ヲ付與スヘシ

俱本文ノ場合ニ於テハ爲手數料本則試驗料ノ半額ヲ徵收ス〔十四年十八號〕
船長運轉手機關手ノ定時試驗ハ三月六月九月十二月トシ其日限ハ豫メ驛遞局ヨリ廣告
スヘシ〔以但書追加〕

右布告候事

○第十四號 二月十七日

明治十年七月第五十三號布告地租徵收期限ノ儀明治十四年分ヨリ左ノ通改定候條此旨布
告候事〔改定期限原〕
〔但市街地租ノ儀ハ従前ノ通ナルヘシ〕
〔布告ニ挿入〕

○第拾六號 二月廿八日

府縣警察費ニ對シ國庫ヨリ下渡シ金ノ割合來ル十四年度ヨリ左ノ通相定候條此旨布告
候事

第一條 東京府ハ警察費總高ノ拾分ノ六トス

第二條 京都府大坂府并各縣沖繩縣ヲ除シハ地方稅支出高ノ拾分ノ三トス

第三條 前二ヶ條割合ノ外警察官吏巡查ヲ除シ並ニ之ニ準スヘキ傭内外國人ノ諸給
外等外吏トモ

與警視廳ノ廳費ハ従前ノ通國庫ヨリ支給ス

○第拾七號 三月八日

集治監ニ入ルヘキ囚徒并ニ其費用ノ區分當分ノ内左ノ通相定メ本年七月ヨリ施行候條
此旨布告候事

第一條 集治監ニ入ルヘキ囚徒ハ刑期終身ノ者及ヒ國事犯刑期五年以上ノ者トス其費
用府縣獄ニ拘留中ノ費用并ニ集治監ニ押送ノ費用トモハ國庫ヨリ支給スヘシ

第二條 府縣獄ニ入ルヘキ囚徒ニシテ集治監ニ在ル者ノ費用ハ其刑ヲ宣告セシ地方ノ
地方稅ヲ以テ支辨スヘシ

○第拾九號 三月廿九日

明治十年七月第四拾九號布告自今廢止候條此旨布告候事

○第貳拾壹號 四月七日

今般農商務省設置候條此旨布告候事

○第貳拾二號 四月九日

福井縣管内裁判事務ノ儼金澤裁判所ニ屬セシム候條此旨布告候事

○第貳拾三號 四月十八日

明治十四年郵便規則第貳百拾七節中左ノ通改正候條此旨布告候事

「六分」ヲ七分貳厘「三分」ヲ三分六厘「五厘」ヲ六厘

「六拾錢」ヲ七拾貳錢「三拾錢」ヲ三拾六錢「五錢」ヲ六錢

○第貳拾四號 四月十九日

區町村會若クハ水利土功ノ集會ニ於テ評決シタル土木費ノ志納者ハ明治十年^{十一}月第七拾九號布告ニ據リ處分スヘシ此旨布告候事

○第貳拾五號 四月廿三日

改定律例第二百九拾五條第三百四條ヲ廢シ及第三百六條中其變ニ遇ヒ以下ヲ刪除候條此旨布告候事

○第貳拾七號 四月廿九日

明治十四年五月十五日ヨリ硫黃無稅輸出差附候條此旨布告候事

但課稅ノ節ハ二月月前ニ布告スヘキ事

○第貳拾八號 五月六日

明治十一年^五月第八號布告株式取引條例第二十六條削除候條此旨布告候事

○第貳拾九號 五月二十三日

各地農商工ノ實況ヲ視察シテ勸業ノ事務ヲ着實ナラシメ倍々其改進ヲ圖ランカタメ今般農商工諮問會規則左ノ通制定候條此旨布告候事

第一章 府縣農商工諮問會

第一條 各府縣ニ農商工諮問會ヲ置ク

第二條 農商工諮問會ハ凡ソ農商工ニ關スル事件就中海陸ノ運漕道路ノ開鑿港灣ノ修築川渠並ニ用惡水路ノ疏通惡虫ノ驅除法獸畜類傳染病ノ豫防法山林ノ保蓄栽培伐採各地方ニ適應スヘキ動植物及ヒ器具ノ試驗勸業列品場其他農商工模範建造物設置ノ方法市場ノ興廢并ニ其規則按ニ就キ農商務卿若クハ府知事縣令ヨリ諮問スル事件ヲ審議シテ其意見ヲ具申シ併セテ農商工ノ盛衰其他ノ統計ヲ調査スルノ任アルモノト

ス

第三條 會員ハ府知事縣令其府縣内ニ滿三年以上住居(本籍寄留ヲ問ハス)ニ二十五歳以上ノ男子ニシテ名望アル農商工五名以上十五名以下ヲ選ンテ之レニ任ス其任期ハ三ケ年トス但滿期再選スルヲ得

第四條 議長ハ府知事縣令若クハ其代理人之レヲ勤ムヘシ

第五條 書記ハ府知事縣令其屬官中ニ於テ之レヲ命ス

第六條 會議ハ每年少クハ一回開クヘキモノトシ若シ會員ノ三分一以上ノ請求アルト

キハ府知事縣令ニ於テ臨時之ヲ許可スルヲ得

第七條 農商務省ノ官吏農商工上等會員及ヒ農商工諮問會所在府縣ノ官吏ハ會議ニ列シテ意見ヲ述フルヲ得但決議ノ數ニ入ラズ

第八條 會議ハ多數ニ決ス可否半ハスルトキハ議長ノ可否スル所ニ依ル

第九條 會員ハ旅費日當ヲ給ス其額ハ該府縣會議員ト同一ナルヘシ

第十條 會費中會員ノ旅費日當ハ地方稅中勸業費ヲ以テ支辨シ其他ノ雜費ハ府縣廳費

ヲ以テ支辨スヘシ

第二章 區及ヒ聯合區町村農商工業議會

第十一條 各府縣ノ區又ハ聯合區町村ニ於テ農業議會若クハ商業議會若クハ工業議會ヲ設立シ或ハ農商工業ノヤメ一ノ議會ヲ設立スルヲ得

第十二條 各議會ハ其農商工業ノ利害ヲ議究シ及ヒ府知事縣令若クハ農商務卿ヨリ諮詢スル事件ヲ審議シ其意見ヲ開申スヘキモノトス

第十三條 各議會ハ其農商工業ノ利害ニ關スル事件ニ付府知事縣令及ヒ農商務卿ニ建議スルヲ得

第十四條 議會ヲ設立セントスルトキハ其區會又ハ聯合區町村會ノ認可ヲ得府知事縣令ヲ經由シテ其願書ヲ農商務卿ニ捧ケ其許可ヲ請フヘシ

第十五條 農工業各議會ノ議員ハ滿二十五歳以上ノ男子ニシテ其議會區域内ニ住居(本籍寄留ヲ問ハス)スル製産者及ヒ該地ノ製産物ヲ賣買スル商人中ヨリ公選シ商業議會ノ議員ハ同上ノ要件ニ適應シタル商人中ヨリ公選シテ府知事縣令ノ認可ヲ請フ

へキモノトス但府縣會規則第十三條ノ各款ニ觸ル、者ハ議員タルヲ得ス

第十六條 議員ヲ選舉スルヲ得へキ者ハ滿二十歲以上ノ男戶主ニシテ其議會區域内ニ住居(本籍寄留ヲ問ハス)シタル農商工業者ニ限ル但府縣會規則第十三條ノ各款ニ觸ル、者ハ撰舉人タルヲ得ス

第十七條 農工業各議會ノ議員ハ二十五人以下トシ商業議會ノ議員ハ五十人以下トシ議員中投票ヲ以テ議長一人副議長一人ヲ撰舉スへシ議員ノ任期ハ三ヶ年トス但滿期再撰スルヲ得

第十八條 議會ノ費用ハ議員撰舉人ノ協議費若クハ其議會區域内ノ協議費ヲ以テ支辨スへシ

第十九條 各議會ノ細則ハ其議會ニ於テ之ヲ制定シ府知事縣令ヲ經由シテ農商務卿ノ認可ヲ請フへシ

○第三十號 五月廿五日

地券証印稅左ノ通改正明治十四年七月一日ヨリ施行シ從前ノ証印稅則ハ同日ヨリ廢止

候條此旨布告候事

証印稅則

地券ニ記セシ

金高拾圓未滿

券狀壹通ニ付
三錢

金高拾圓以上
貳百圓未滿

千分ノ五
卽拾圓ニ付五錢

金高貳百圓以上
五百圓未滿

壹圓

金高五百圓以上
千圓未滿

壹圓貳拾五錢

金高千圓以上
貳千圓未滿

壹圓五拾錢

金高貳千圓以上
五千圓未滿

貳圓五拾錢

金高五千圓以上
壹萬圓未滿

三圓七拾五錢

金高壹萬圓以上

五圓

左ニ掲クルモノハ券面代價ノ有無ニ拘ハラス券狀壹通ニ付三錢トス

代換授與并ニ水火盜難コロリ地券書換

荒地其他無代價地券授與書換

荒地起返及開墾下年季明其他一筆地ヲ數筆ニ分裂數筆地ヲ一筆ニ合併等コテ所
有主變換セサル地券書換

○第三拾壹號 五月廿五日

明治九年^八月^八第百五號布告米商會所條例中內務省及內務卿又ハ大藏卿トアルハ都テ農商
務省及農商務卿ト改正候條此旨布告候事

○第三拾二號 五月廿六日

西洋形權衡製作檢査印章左ノ通改定候條自今左ノ印章ヲ証トシ從前ノ權衡ト同様相用
フヘシ此旨布告候事



換

○第三十三號 五月二十八日

明治十三年^七月^七第三十五號布告海上衝突豫防規則左ノ通追加候條此旨布告候事

(原布告訂正)

但明治九年^二月^二第拾壹號布告廢止候事

○第三十四號 五月廿八日

明治十三年^七月^七第三拾五號布告海上衝突豫防規則ニ記載シタル檣燈及舷燈ハ農商務省ノ
許可ヲ受ケタル者ニアラサレハ之ヲ製造スルコトヲ得ス犯ス者ハ貳圓以上拾圓以下ノ

罰金ニ處ス

右布告候事

○第三十六號 七月八日

刑法治罪法來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

○第三十七號 七月八日

開拓使管下渡島釧路兩國ノ内左ノ通合郡名稱變更候條此旨布告候事

渡島國

福島郡

津輕郡

明治十四年

〇二百八十四

右二郡ヲ合セテ松前郡ト改稱

釧路國 網尻郡

右北見國へ編入網走郡ニ合セ網走郡ト稱ス

○第三十八號 七月二十一日

教育令第九條小學校設置ノ區域町村ノ境界ニ仍リ難キ事情アルトキハ別ニ區域ヲ畫ル
ヲ得ヘシ此旨布告候事

但本文ノ區域内ニ於テ會議ヲ要スルトキハ區町村會法第八條ニ準據スヘシ

○第三十九號 七月廿九日

金澤裁判所管内越前國敦賀郡若狹國一圓自今京都裁判所管轄ニ屬シ候條此旨布告候事

○第四十號 八月十三日

石油取締規則別冊ノ通相定メ來明治十五年一月一日ヨリ施行候條此旨布告候事

石油取締規則

第一條 石油ヲ分テ二種トス華氏驗温器百二十度以上ノ熱度ニ至ラサレハ引火セサル

モノヲ第一種トシ其百二十度ニ達セサルモノ引火スルモノヲ第二種トス

第二條 點燈用ニ供スルハ第一種ノ石油ニ限リ第二種ノ石油ハ醫師化學家藥商工職家

ニ於テ業用ニ供スルノ外之ヲ用フルヲ許サズ

第三條 石油營業者ヲ分テ擴張者精製者問屋及ヒ小賣商ノ四類トス都テ管轄廳東京府

視ノ許可ヲ受クヘシ但シ二類以上兼業スルトキハ別ニ其許可ヲ受クヘシ

第四條 擴張者精製者問屋多量ノ石油ヲ貯藏スル場所及ヒ倉庫精製所ノ構造方ハ都テ

管轄廳東京府下ハ警視廳ニ於テ検査ノ上認可スルモノトス

第五條 第二種ノ石油ハ問屋ヨリ直ニ需用者ニ販賣シ小賣商ハ第一種ノ石油ニ限リ販

賣スルヲ得ルモノトス但シ販賣ノ時限ハ日出ヨリ日没迄ノ間トス

第六條 醫師化學家藥商職工家第二種ノ石油ヲ購買スルトキハ其數量及ヒ需用ノ趣意

ヲ詳記シタル証票ヲ問屋ニ交付スヘシ問屋ハ其數量年月日及ヒ買人ノ住所氏名ヲ別

帳ニ記載シ其証票ヲ貯ヘ置クヘシ但シ幼年者及ヒ替者變者其他不能力ノ者ニハ販賣

スヘカラス

第七條 警察官吏ハ石油精製所若シハ問屋ニ就テ石油ヲ検査スヘシ其検査ヲ經タルモ
 ノコアラサレハ問屋又ハ小賣商ヨリ需用者ニ販賣スルヲ得ス
 第八條 検査済ノ石油ヲ家屋内ニ貯藏スルヲ得ルハ問屋ハ第一種ノ石油五石以内第二
 種ノ石油五斗以内トス小賣商ハ第一種ノ石油三石以内トシ需用者ハ第一種ノ石油二
 石以内第二種ノ石油五升以内トス容器ハ都テ金屬製ヲ用フヘシ
 第九條 石油ヲ運搬スルルハ其石油タルヲ及ヒ其種類ヲ表記スヘシ
 但其積卸ニ必用ナル時間ノ外波戸場又ハ路傍ニ置クヘカラス
 第十條 此規則ニ背ク者ハ貳圓以上貳百圓以下ノ罰金ニ處ス
 ○第四拾壹號 八月二十五日
 明治八年五月第九十五號布告新舊公債証書發行條例第六條第二節ヘ左ノ但書及附錄ヘ左
 ノ圖面追加候條此旨布告候事
 但裁判所ニ於テ公賣スル証書ヲ買受ケタル者又ハ裁判所ノ言渡ニヨリ流質トナリ
 タル証書ヲ有スル者此條例附錄第三圖ノ振合ニ依テ名面書換ノ上裁判所ヨリ管廳

ヘノ通知書ヲ添ヘ管廳ノ檢印ヲ受クヘシ

管廳公債掛ノ檢印ヲ捺スヘシ

附 錄 第 三 圖

割 印	何某所持之處 何々ニ付公賣ニ因テ抽者買受ケ候事實正也 何裁判所ノ言渡ヲ以テ流質ト相成抽者引受 候事實正也
一此證書是迄抽者所持之處責成ノ讓渡候事實正也	
明治何年何月何日	何 某 印
本文之通相違無之者也	
明治何年何月何日	何(府縣) 公債掛 何等屬何某印

明治十四年

〇二百八十六

正誤

○下卷目錄之部

十二丁 裏面六行 四月五日、四月九日ノ誤
四十丁 裏面一行 第九條ノ下第一條、第十一條ノ誤

○下卷之部

四 丁 裏面九行 同日、三月廿四日ノ誤
 六 丁 表面一行 書第十但、但書第十ノ誤植
 八 丁 裏面十一行 定價、定價ノ誤
 十一丁 裏面四行 幾計、幾許ノ誤
 十二丁 裏面十行 割注中爲替手形ノ下荷爲替手形ノ五字ヲ脱ス
 十六丁 表面七行 貽用ハ貼用ノ誤
 三十四丁 裏面十行 府縣ノ下所有ハ所用ノ誤
 三十八丁 表面七行 今停止ハ令停止ノ誤

四十丁 裏面七行 輸出税ノ下未納ハ未納ノ誤
 四十一丁 裏面五行 陸揚スヘンノ下苦ハ若ノ誤
 四十二丁 表面五行 沙ハ沙ノ誤
 四十二丁 裏面四行 未税ハ未納税ノ誤
 四十五丁 裏面六行 期限ノ下延縮ノ二字ヲ脱ス
 四十七丁 裏面七行 事ノ下第ハ衍
 五十二丁 裏面二行 但書中郵便ハ郵便ノ誤
 五十六丁 裏面六行 明治元戌辰ハ戌辰ノ誤
 六十丁 表面二行 妨ナシノ下苦ハ若ノ誤
 六十丁 裏面十行 通ノ下ヲハタノ誤
 六十一丁 裏面七行 届置ノ下ヘンノ二字倒置
 六十五丁 裏面一行 府廳ハ府縣ノ誤
 六十五丁 裏面四行 等ハ儀ノ誤

七十丁 裏面三行 付ノ下相封ハ相對ノ誤
 九十丁 表面十二行 記載ハ書載ノ誤
 九十八丁 表面六行 出納ハ出入ノ誤
 九十八丁 表面九行 餘義ナク出港シハ餘義ナク出入港ノ誤
 百四丁 裏面十二行 苦ハ若ノ誤
 百十丁 表面四行 十二月廿日ハ十二月廿二日ノ誤
 百十六丁 裏面五行 明治八年三月廿二日ハ八月廿二日ノ誤
 百廿六丁 表面九行 下波ハ下渡ノ誤
 百廿九丁 裏面四行 授與ハ授與ノ誤
 百三十丁 表面二行 變更ハ變更ノ誤
 百四十丁 表面十二行 戌ハ戌ノ誤
 百四十四丁 裏面九行 人民ノ二字枠内ニアルハキ所誤ヲ製造ノ二字ヲ枠内ニ植ニ
 百四十五丁 表面十行 三瀧縣ハ三瀧縣ノ誤

百五十四丁 表面九行 何ハ但ノ誤
 百七十七丁 裏面十二行 七月七日ハ七月九日ノ誤
 百八十二丁 表面七行 割注中三十二號ハ三十三號ノ誤
 百八十二丁 裏面八行 府廳ハ府縣ノ誤
 百九十五丁 表面七行 株券ノ上諸ヲ脱ス
 百九十六丁 表面十行 諸ノ下估ハ帖ノ誤
 二百六十丁 裏面十一行 距里ハ距離ノ誤
 二百六十五丁 裏面十二行 一類ハ二類ノ誤
 二百七十丁 表面二行 變換ハ變換ノ誤
 二百七十丁 表面七行 變換ハ變換ノ誤
 二百七十四丁 表面十一行 歴史等ハ歴史等ノノ誤
 二百七十八丁 裏面二行 區部郡區部ハ區部郡部ノ誤
 二百八十五丁 表面十一行 間屋ハ間屋ノ誤

明治十四年九月廿五日出版御届

同年十月 出版

愛媛縣平民

編輯兼出版人 梶原 猪之松

愛媛縣讚岐國香川郡
西新通町十八番地

定價金貳圓

東 京 圖 書 館

新 門 四 一 函

十 部 四 架

類 號